

事業報告書

団体名：特定非営利活動法人亀岡子育てネットワーク

1. 事業名	0・1・2・3歳親子 room COCOいく						
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)						
【事業期間：4月1日～3月31日】							
くらす	開催日数	開催時間	延べ参加人数	参加費	内容	場所	
はじめてくらす (ベビーマッサージ)	1ヵ月半～はいはいするまで	10回 (月1回 木曜)	10時～11時半	101組 (202人)	1200円	助産師によるベビーマッサージ。ママのティータイム。交流。	ふらっとHOUSE
コアヲくらす (子育てママトーク)	2ヵ月～6ヵ月	7回	10時半～11時半	28組 (56人)	500円	子育てで不安に思っていることや疑問に思っていることの解消、おもちゃや絵本の紹介、交流	
プチこぶたくらす	4ヵ月～6ヵ月ぐらい	5回 (9月～開始 月1回月曜)	10時～11時半	48組 (96人)	1000円	【10時～11時】 親子のふれあいあそび、てあそび、リズムあそび、運動あそび、ママのストレッチ	
こぶたくらす	7ヵ月～9ヵ月ぐらい	10回 (月1回月曜)	10時～11時半	94組 (188人)	1000円	クッキング、季節の歌、季節の製作、手作りおもちゃ、絵本の読み聞かせなど	
たぬきくらす	10ヵ月～1歳ぐらい	10回 (月1回月曜)	10時～11時半	65組 (130人)	1000円	【11時～11時半】 子育てのお話し、ママのティータイム、子どもの成長の記録(アルバム)作り、ママ同士の交流、悩み相談など	
きつねくらす	1歳1ヵ月～1歳3ヵ月ぐらい	8回 (月1回月曜)	10時～11時半	33組 (66人)	1000円		
ねこくらす	1歳4ヵ月～2歳ぐらい	10回 (月1回月曜)	10時～11時半	52組 (104人)	1000円		
ドキはびくらす	2歳～就園前	17回 第1・第3 火曜	10時～12時	202人	1000円	4、5月の親子体験後、6月からは子どもだけの活動。3月1日は親子でのおたのしみ会。リズムあそび(歌・楽器)、運動あそび、えのぐあそび、新聞あそび、表現あそび、絵本の読み聞かせなど	旧一の宮幼稚園
特別講座	救急救命のおはなし講座 (保育付き)	2回 (10/23、 1/29)	10時～11時半	18組 (36人)	500円	亀岡消防署救急救命士による乳幼児のけがや病気の話や対処方法についての講座	ふらっとHOUSE
	歯のおはなし講座	2回 (11/24、 2/26)	10時～11時半	18組 (36人)	500円	歯科衛生士による子どもの歯の話や、母親の歯のケア等の話。参加の子ども歯のチェック、質疑応答、交流	
計	81回			1,116人			

【主旨】

現在亀岡において、家庭で子育てしている親子は、自由に遊びに行ける「ひろば」や地域に根ざした「サークル」、一時保育のある施設を利用でき、10数年前に比べるととても子育てしやすい環境になってきている。しかし、出産から乳幼児期にかけ、子育て期特有の孤独と不安を感じている人が多い。また、社会の変化に伴うメディアや電子機器の影響を多数受け、大切な親と子どもの本当のふれあいが希薄になってきていると感じる。これらは、年々増加傾向にある核家族の家庭において、祖父母や近所のおせっかいなおばさんなどから昔ながらの子育てのノウハウを教わる機会が減少したり、気軽に話せたり聞いたりできる機会を持ちにくいことや、情報化社会ゆえの情報の氾濫が原因と考えられる。また、私たち亀岡子育てネットワークでの他事業「ゆりかごひろば」「講座」「一時保育」等で、親子と数多く関わるうち、育児書やメディアから与えられるいろいろな情報ではなく、その子どもに合った子育てのノウハウを伝えるべきではないかと考えた。また、ひろば等で悩みや相談を受ける中で、これからの課題は、母親の心の安定をはかり、子育てが「つらい」だけではなく「楽しい」と感じられるよう、そして少しでも孤独感や不安感を減らし、笑顔を増やし、一人一人の親が力をつけていけるようフォローして行くことが必要なのではないかと考えた。

【内容】

そこで、この“COCO いく”では、前年度同様、生後1ヵ月半から参加できるベビーマッサージ講座に始まり、生後4ヵ月から保育所（園）幼稚園へ入園するまでの親子には、その子どもの月齢によってクラス分けを設定した。今年度はより参加しやすいように月齢の分け方を工夫してクラス数を増やした。各クラスで、月齢や発達に合わせて親子が自然にふれあうことできるあそびを通して親子の愛着形成を促し、また、子育てのノウハウを伝えることで子育て期の不安や大変さを乗り越え、子育てが楽しいと思えるように導いていけることを目的とした。また今年度は新たに、参加費の負担を軽くした「コアラクらす」を追加し、「どこにでかけようか?」「私の赤ちゃんのお世話は間違っていない?」「みんなはどうしているの?」と母親が子どもとの生活で不安に思っていることや悩んでいることを気軽に聞ける場を設け、まず外に出かけるきっかけとなるようなクラスを設定した。

全てのクラスにおいて、母親の心の安定が子どもに大きく影響することをふまえ、母親が他の参加者やスタッフとコミュニケーションをとるうちに心が安定し、子育ての孤独感や不安感を減らし、親子の愛着が深まような内容とした。また、それぞれの子どもの特性を認め、その子どもが本来持っている力を自然に引き出せるよう工夫する内容とした。

3. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

【はじめてくらす（ベビーマッサージ）】 生後1ヵ月半～はいはいするまで

チラシや亀岡市発行の広報を見て参加される方が多く、産後初めてこういった場に出かける方や、一人で参加される方が多かった。子育てに戸惑いと不安を持っている方も多く、産後の早い段階から母親が外に出て人と交流するきっかけを作ることができたり、助産師から産後の母親の体の話や赤ちゃんのお世話についての話を聞くことができ、孤独や不安をやわらげることができたことは大きな成果といえる。また、母親同士が知り合いになれるきっかけとなったことも大きな成果だろう。

【コアラくらす (子育て Mama トーク)】 生後2ヵ月～6ヵ月ぐらい

今年度、新たに始まったクラスで、母親が気軽に外出できるきっかけとなるよう参加費を500円に設定した。参加者の多くは、子育てで不安に思っていることや疑問に思っていることや、赤ちゃんとの毎日の生活をどう過ごしたらいいかなどを気軽に聞けたり、参加者同士が交流でき、次への外出のきっかけとなった。

【プチこぶたくらす】 生後4ヵ月～6ヵ月ぐらい

【こぶたくらす】 生後7ヵ月～9ヵ月ぐらい

【たぬきくらす】 生後10ヵ月～1歳ぐらい

【きつねくらす】 生後1歳1ヵ月～1歳3ヵ月ぐらい

【ねこくらす】 生後1歳4ヵ月～2歳

今年度、特に1歳までの参加者が多く、急きよ、【プチこぶたくらす】を増やして対応したが、キャンセル待ちがでるほどの反響であった。どのクラスも、一人で参加される方が多く、子育てに不安を持って参加される方が多くみられた。心と体が緊張している方も多く、子どもの体に自然に触れられるよう親子での遊びを通して「赤ちゃんをまるく『ギュッと』抱きしめる」「目を見つめ合ってあそぶ」「目を見て話しかける」「抱っこしてゆれる」「声をかける」ことを具体的に、くり返し伝えられるよう工夫していった。また、参加者同士やスタッフと交流ができるよう設定した。

その結果、緊張気味の母親の表情も少しずつ変化し、とてもやわらかな笑顔が見られるようになってきた。スタッフや他の参加者と会話をするうちに、心の緊張もほぐれ、楽しんで子どもとふれあい遊びをすることができるようになり、心が安定し、孤独や不安の解消へとつながったと考えられる。また、それぞれの子どものちょうどその時期の成長や、子どもの発達や行動の意味、遊びがもつ意味を伝えることで、子育てのコツをつかんだり、あせらず楽しみながら子どもの次のステップへのお手伝いができるようになっていったと考える。そして、母親が子どもとふれあうことを楽しむことにより、子どもも母親の目を見つめほほえみ、そしてまた、その子どものほほえみを見て母親がほほえむといった相互作用で、お互いの見つめ合いが親子の愛着形成において、よりよい方向へとつながっていった。毎回、子どもの成長の記録や子育てのヒント、季節の歌のプリントなどを綴ったアルバムを作成していった。その中で、参加中の親子の笑顔の写真を毎回プレゼントしアルバムに貼っていくことで、母親は自分の笑顔と子どもの成長をとても喜び好評であった。

参加当初は子育てが「しんどい…」「つらい…」と訴えていた方にも笑顔が増え、元気な様子になっていき、子育てが「つらい」だけのものではなく「楽しい」と感じられるようになったことは大きな成果といえる。また、少しずつ子育てに自信を持ち始めた様子もうかがえ、次への出産へとつながっていったと考えられる。

【ドキはびくらす】 2歳～未就園児

初めて「親子が離れる」という参加者が多く、親子共々不安な様子だった為、その不安を少しでも解消できるよう保護者に対しても、子どもに対しても、一人一人丁寧に対応していった。また、子どもができるだけ遊びの中でいろいろな経験ができるよう設定し、また一人一人の遊びを大事にしなが、友達同士の関わりが持てるよう配慮した。

その結果、親子共々、回を重ねるごとに笑顔が増え、遊びを通じていろいろな体験をすることができた。また友達との存在も認められるようになり、友達とのやりとりの中で、一緒に遊ぶ楽しさを感じることができるようになったり、子どもの自立を促したことで、これからの保育所(園)や幼稚園に入園する準備段階として、

大きな心身の成長となったと感じる。また、保護者にとっては、子どもと離れた2時間を思い思いに過ごされているようで、月に2回のこの時間を計画的に、有意義に過ごし、リフレッシュの機会となったようだ。

【救急救命のおはなし講座】

子育て中には誰もが不安に思っているにも関わらず、なかなか詳しくは聞く機会がない乳幼児の頃におこりうる家庭での病気や急なケガの話やその対処方法を、救急救命士さんから教わった。「こんな時どうしたらいいのだろう」と不安に思っていることをじっくり聞くことができ、質疑応答の時間は大変多くの質問が出された。なごやかな雰囲気の中で、具体的にわかりやすく教わったので、いざという時に少しでも慌てず対処できるようになると感じた。また、この講座は保育付きだった為、ゆっくり話を聞くことができ、参加者同士もゆったりと交流できた。

【歯のおはなし講座】

歯がはえ始めたり、そろそろ歯がはえる時期になると、「どうしたらいいか」不安に思い悩むことが多いが、歯科衛生士さんに教わることで、その悩みも解消できる内容となった。また、子どもと共に母親の歯のケアの大切さも教わり、産後、子どものことばかりを優先させてしまう母親にとって「自分」の大切さも伝わった。また、子ども一人一人の歯のチェックをしてもらうことで、一人一人の相談に応じてもらうことができ、より一層安心へとつながった。

【全体】

子育て中の一番の悩み「こんな時はどうしたらいいのだろう?」「このやり方で間違っていないのかな?」「みんなどうしているの?」そう思った時にすぐに誰かに相談できるのが一番安心するものだが、現在は一番頼りにしたい祖父母が近くにいなかったり、また引っ越してきて知り合いが少ない者にとって、その「相談」や「聞きたいことが聞ける」環境が整っていない。そこで、この「COCO いく」のように、月齢別にクラスが設定されていることで、「今、私が行くべきクラス」と簡単に理解でき、気軽に参加し、その「ちょっと聞きたいこと」を聞くことができたり、「分からなかったこと」を知ることができたと考える。そして、この地域で子育てをしても「自分一人ではない」「地域の人がいる」「地域の中にいる」と思える場ができることで、子育ての安心、自信へとつながっていくと考えられる。そして親として、一人の人としての自信を身につけ、子どもとの生活の楽しさを味わうことができたと考える。

「COCOいく」では、生後1ヵ月半から保育所(園)・幼稚園へ入園するまで、家庭で子育てをしている親子を心身共にフォローできる場として大切な事業となってきた。初めて親となった母親は「ちゃんと育てなければ」と思いがちで、片意地貼ったり頑張りすぎたりすることがあるが、“子育て”は無理せず頑張りすぎず、ちょっとしたことなら「まあいっか」と笑顔で過ごせ、“子育て”を少しでも楽しむことができるよう働きかけていった。また、「母親が笑顔になると子どもも笑顔になる」「母親が楽しいと子どもも楽しくなる」ことを伝えたことで、まずは母親が毎日を元気に笑顔で過ごせることの大切さを知ることができたと考える。

“COCOいく”に参加した親子が当団体の他事業である、「ゆりかごひろば(千歳町)」「ゆりかごひろば 亀岡駅前(ふらっとHOUSE)」「一時保育 りとっぽ」を利用することも多くみられ、子育て中の人にとって、より地域とつながることができたことは、当団体が複合的な事業を行っていることで大きな効果があったと考える。

また、亀岡市の乳幼児4ヵ月健診や11ヵ月健診などでチラシを配布させていただいたり、亀岡市の広報「キラリ☆かめおか」へ毎回掲載していただいたことで、多くの参加者につながったと考える。公的などところで広報できたことで、本当に情報が必要な方に周知できたり、産後「出かけたが」と思った母親にとって安心して参加を申し込める場となったと考えられる。

全体を通して、子どもの心の安定はもちろん、母親の心の安定を図り、「不安」を「自信」へ変えていくことができ、つらくなりがちな乳児期の子育てを楽しむことができるようになったと考える。その結果、親子の愛着形成を促し、親も子も明日への力を身につけていくことができたと考え。今後も、こういった親子が育つ場が必要だと考え、来年度も引き続き開催していく予定である。そして、現在の母親のニーズに応えながら、常に母親に寄り添える場になるよう努めていきつつも「大切なこと」「伝えたいこと」「伝えなければならないこと」を伝えていける場としていきたい。そして、一人一人の親が力をつけていける場であるよう努めていきたい。

4. 協働の効果

※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。

事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。

5. 今後の展開

事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。

本事業を3年間実施し、子育て中の母親が不安や孤独を解消し、子育てを少しでも楽しむことができ、親として自信を持っていくための場所を作り上げていくことができたと感じる。今年度も、キャンセル待ちの状態が多くあった為、来年度はクラス分けなど日程や内容を調整していきたい。また、子どもの体調や母親の体調不良により、当日キャンセルされる方も多く、参加費収入が不安定であり、継続するには費用的な面が大きな問題となるが、今後も必要な事業として考えている為、現在の形で継続していく予定である。しかし、自主事業として継続するためには、参加者の負担が必要となり、金銭的な面で参加しにくい方がいると考えられる。親として子育て力をつけ自信を持って子育てができるようになるこのような講座を定期的開催し、より多くの方がいつでも安心して参加できることが望ましい。

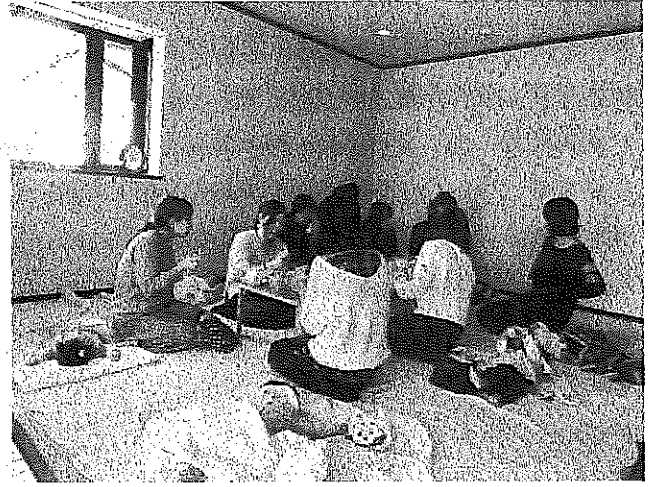
また、乳幼児期からの親子のかかわりの深さが、今後、子どもが大きくなり、小学生、中学生と成長し、思春期の不安定な時期に親子が向き合える為に大きく影響することを考えると、今この乳幼児期に「不安や悩みを解消できる場」「聞きたいことが聞ける場」「教えてほしいと言える場」「助けてと言える場」の環境を整えることが、家庭で子育てしている親子の支援を充実させることの一つと考える。そういったことを踏まえ、亀岡の子育て環境の改善にむけて、亀岡市の子育て支援制度として取り組まれることを期待している。

来年度以降、この3年間で培った内容をさらに充実させ取り組んでいきたい。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

【はじめてくらす (ベビーマッサージ)】



【コアラクらす】



【プチこぶた・こぶた・たぬき・きつね・ねこくらす】



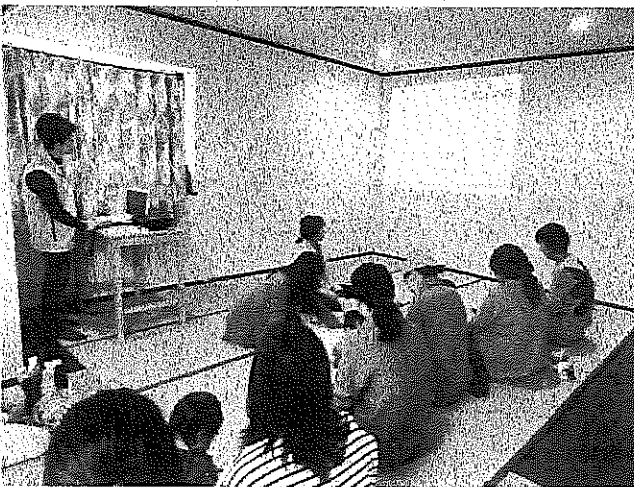
【ドキはぴくらす】



【救急救命のおはなし講座】



【歯のおはなし講座】



事業報告書

団体名：(一社) 京都社会福祉士会中部支部口丹地区

1. 事業名	第13回社会福祉公開講座
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)

※ 社会福祉公開講座実施準備会 計11回実施

日時：平成27年5月～平成28年2月 10時～12時 (内、資料作成と前日準備13時～15時)
場所：ガレリアかめおか 3F第2会議室 (内、1回、亀岡市立老人福祉センター)
出席：延べ64名
内容：5月・講演テーマの決定「認知症カフェ」について
6月・講座内容の検討
7月・日時・会場・講師への依頼について
8月・講座の構成
9月・講座の要綱の作成
10月・協力機関への依頼
11月・チラシの作成・広報活動
12月・チラシ配布、プログラムの作成
平成28年1月・申込名簿の確認、講師への確認、当日の役割分担の決定
2月・当日配布物準備、資料の印刷

※事前研修

日時：平成27年8月23日(日) 10時～17時
場所：同志社大学京町家キャンパス「江湖館」(こうこかん) で開かれる、オレンジカフェコモンズ
出席：1名
内容：OJTを通じた認知症カフェ運営者育成に関わる事業で、実際に運営しているカフェをのぞいてみることで「認知症カフェ」の理解を進める。
研修受講料：無料

※第13回社会福祉公開講座

日時：平成28年2月20日(土) 13時～17時
会場：ガレリアかめおか2F大広間
参加者数：57名

※事業のまとめ

日時：平成28年3月6日(日) 10時～12時
場所：ガレリアかめおか3F第2会議室
出席：8名
内容：会計報告、アンケート集計、報告書チェック

3. 成果	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
<p>昨年度は「介護保険制度、どこが変わるの？」とのテーマのもと講座を開催し、その中で「地域包括ケア」の機能強化がより求められることを学んだ。今年度はさらに具体的に「居場所づくり」の一つとして、『認知症カフェ』について学びたいと考えた。2025年には約700万人（約5人に1人）が認知症の人と推察される。亀岡市においても、各自治会や有志のグループが、さまざまな形で高齢者が安心して地域で暮らせるための場を提供されているが、この講座の準備を進める中で、居場所づくりの対象を『認知症』というカテゴリーに特化する必要があるのか？との疑問も出た。</p> <p>本講座では、亀岡市社会福祉協議会にご協力いただき、まず現在の地域の高齢者サロンの紹介をしていただいた。約40のサロン活動が行われていることがわかり、参加者も大変関心を持って下さった。</p> <p>そして、講師の武地一先生からは、①認知症という病気を振り返って、②認知症への取り組みやオレンジプランとカフェ、③認知症カフェとは、④認知症カフェ運営の実際、⑤認知症カフェ運営の様々な形と課題、という話しの内容で御講演いただき、高齢者サロンと認知症カフェの違いを学んだ。特に、世間的にニーズが高いのは認知症予防についてであるが、そこにあるのは「認知症にはなりたくない、なったらおしまい」という認知症を排除する精神の場合も多いということ、また「誰もが集える場」という響きのよい言葉が、結果的に認知症の人を排除している場合があるということ等を学べたことは、大変有意義であったと思う。</p> <p>この度の、地域での「認知症の人」への「支援」という視点での講座は、「予防」とはまた違い、実りあるものであったと実感している。アンケートからも、地域福祉への理解がまた一つ高まったものと考えている。</p> <p>参加者：民生委員、地域包括支援センター、居宅介護支援員、介護福祉士、自治会等一般市民、社会福祉士の57名の参加者</p> <p>効果：①地域での福祉活動の啓発・促進に効果があった。</p> <p>②亀岡市社会福祉協議会等、地域福祉の他機関との連携がもてた。</p> <p>③社会福祉士会の公開講座への初めての参加者が21名おられ、当会を知っていただく機会となった。</p>	
4. 協働の効果	※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。 事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。
5. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
<p>事業としては、今後も地域に根ざしたテーマを掘り起こし、地道に「社会福祉公開講座」を開催していきたい。</p> <p>今回、亀岡市社会福祉協議会の協力を得て、地域の現状を紹介できたのは、良かった。社会福祉協議会をはじめ関係機関との連携に努めてまいりたい。</p> <p>本講座に参加者されたある地域より、「認知症カフェ」の開催に向けての支援の依頼があった。日頃、「公開講座」以外にも福祉相談会等地域に根ざした活動を行っているが、今後もさらに、地域において社会福祉士会の活動メインである“福祉をつなぐ”役割を担っていきたい。</p>	

第13回 社会福祉公開講座

認知症カフェってどんなところ？

～地域包括ケアの視点から考える～

例年実施して参りました「社会福祉公開講座」ですが、第13回目となる今回は、「認知症カフェ」について学びます。その取り組みについては色々な課題が見えてくると思いますが、地域の中で、どうしたら認知症の方を見守り支えていけるのかを考えます。地域でのさまざまな取り組みをさらに深めていただける機会となれるよう、皆様のご参加をお待ちしています。

日時：平成28年2月20日（土）14:00～16:30（受付 13:30～）

会場：ガレリアかめおか 2階 大広間

内容：●講演「認知症カフェについて」

講師：^{たけち}武地 ^{はじめ}一氏（京都大学医学部附属病院 神経内科講師）

《プロフィール》

医学博士。日本老年医学会、日本認知症学会、日本老年精神医学会の専門医・指導医。認知症ケアにおける認知症カフェの重要性を提唱されています。NPO法人オレンジコモンズ理事長。京都認知症カフェ連絡会代表世話人。『認知症カフェハンドブック』編著・監訳。

●報告「亀岡産サロンって、こんなにあります！」

報告者：^{くまがい}熊谷 ^{まき}真喜氏

（社会福祉法人亀岡市社会福祉協議会 地域支援課地域福祉係 係長代理）

定員：80名

参加費：無料

主催：一般社団法人 京都社会福祉士会 中部支部

後援：亀岡市

※この講座は「平成27年亀岡市支えあいまちづくり事業」の助成を受けて実施します

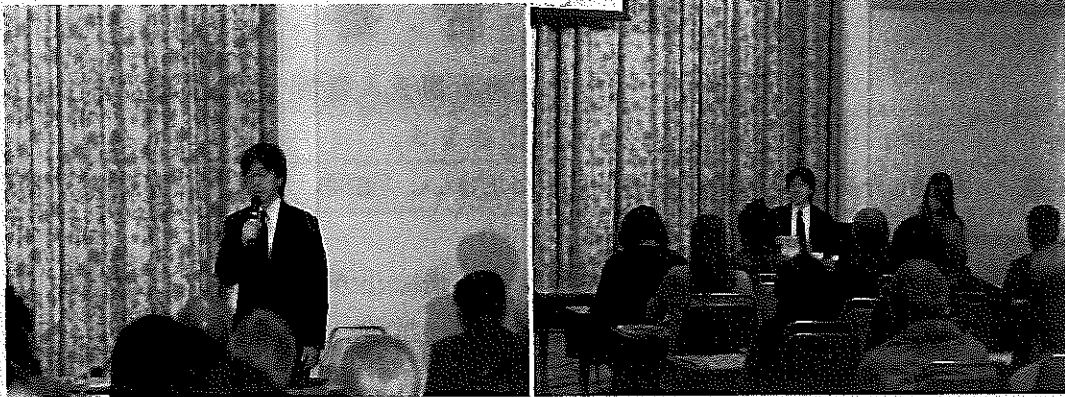
【申込方法】裏面の申込事項をFAXまたは郵送、もしくは申込項目を記載しメールにてお申し込み下さい。

【問合せ・申込先】

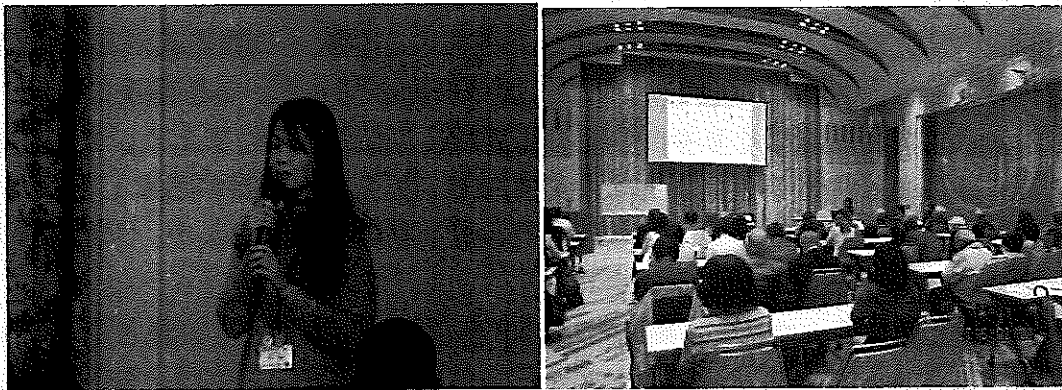
〒602-8143 京都府京都市上京区猪熊通丸太町下ル仲之町 519 京都社会福祉士会2F

TEL:075-803-1574 FAX:075-803-1575 Email: cswkyoto@mediawars.ne.jp

武地一先生



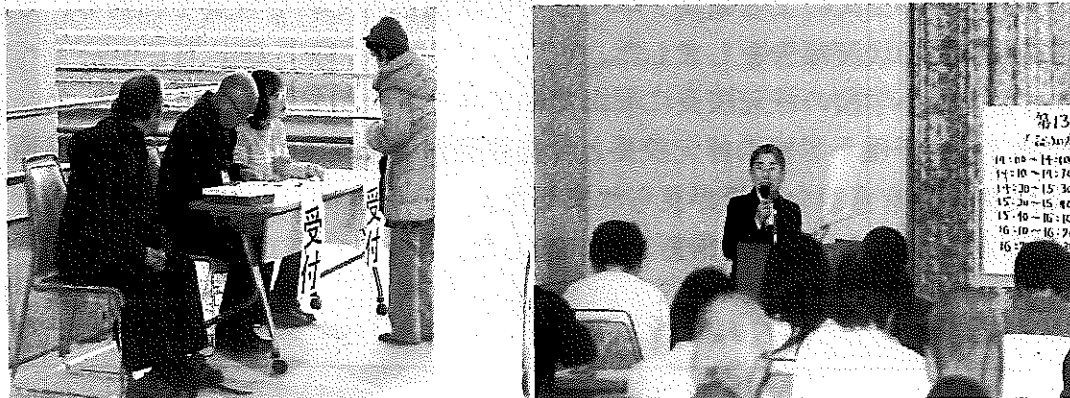
熊谷真喜様



会場風景及び質疑応答



スタッフ



事業報告書

団体名：特定非営利活動法人亀岡 人と自然のネットワーク

1. 事業名	アユモドキ架け橋プロジェクト2015
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)
<p>1. 岡山市での情報収集と交流</p> <p>○会場：岡山市立高島小学校、岡山市立千種小学校、岡山シティーミュージアム</p> <p>6月1.2日(金) 岡山市立高島小学校と岡山市立千種小学校への訪問と交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山市立高島小学校では、学校関係者とアユモドキの取り組みについて説明を受け、実際人口受精し、個体飼育されている理科室を見学しました。(学校関係者2名、教育委員会2名、NPO4名) ・岡山市立千種小学校では、当日、新年度のアユモドキの小学校への贈呈式があり、同席し、各学校関係者から状況を聴取しました。また、実際飼育を行っている教諭及び生徒と交流し、実施の小学校での環境づくりや昨年度の生育状況の報告を受けました。また、亀岡での状況と取り組みを紹介し子どもたちは大変喜んで、たくさん質問が出ました。 ・岡山の状況を亀岡で知らせるため子どもたちの状況を動画撮影しました。(学校関係者5名、教育委員会2名、子どもたち30名) ・岡山市教育委員会関係者と交流し、岡山市におけるESDの取り組み状況とそれに関連して今各学校で実施されている「ユネスコスクール」について説明を受け、8月8日に亀岡市で開催する講演会に千種小学校の桴元(とちもと)校長が出席されることを後日確認しました。(教育委員会3名、NPO4名) ・岡山シティーミュージアムは、アユモドキなどのペーパークラフトを見学しました。(学芸員1名、NPO4名) <p>2. 亀岡市での講演会</p> <p>8月8日(土)</p> <p>○会場：亀岡市文化資料館(関係者55名うち子ども29名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料館の事業である「のどかめ親子でアユモドキ見守り隊」(第4回)の活動に参加しました。 ・講演会を開催しました。(見守り隊の参加者も参加しました。) ① NPO会員の仲田氏による亀岡アユモドキの状況と歴史的な背景を説明し、6月12日の岡山訪問の状況報告をしました。 ② 岡山市立千種小学校の桴元校長に岡山でのアユモドキのお話して頂きました。(講演会終了後、千種小学校の桴元校長と今後啓発飼育を実施予定の亀岡市立城西小学校の田端校長との有意義な交流が見られました。) ・講演会の様子についてもビデオ撮影を行いました。 	

3. 環境フェスタでの展示啓発活動

10月3日(土)

○会場：ガレリアかめおか(1000名)

- ・天然記念物アユモドキのコーナーをつくり、岡山・亀岡での活動を展示パネルにして啓発しました。
- ・岡山市立高島小学校の子ども「アユモドキ劇」を中心に6月の学校訪問などを映像で流し啓発しました。

3. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

「地元の魚アユモドキ」を身近に感じてもらえるようなムーブメントを創出するために、6月にアユモドキの飼育では先輩である岡山の小学校を中心とする関係者と接触し、交流、見学しました。

そして、岡山の小学校では、実際に校内で人工授精をさせ、地元の岡山淡水魚研究会の手厚いサポートで、命の尊さを学んでいました。また、天然記念物の保全活動として、単なる水辺学習だけでなく、人工繁殖の土づくり、仔魚の観察、餌やりをこなし、アユモドキ啓発劇、幼稚園・保育園に出向いての啓発活動など多彩なプログラムがありました。

また、私たちのNPOは、8月8日に岡山での報告会という形をとって、亀岡市文化資料館で29名の子どもたちに伝え、同時に岡山からも岡山市立千種小学校の校長をお呼びして、特に今後啓発飼育をする予定の亀岡市立城西小学校の田端校長と懇談して頂き、新たな岡山と亀岡の交流の基礎を作ることが出来ました。

今後、望まれる学校間の交流においても、6月12日の岡山の小学校の子どもたちは、是非亀岡に行ってみたいと思いを持っている様子で、今後亀岡の小学校の啓発飼育を通じた交流も現実のものとなる可能性が高いと思います。

最後にこの岡山と亀岡の子どもたちの交流を軸に、それを見守り進めていく学校連携や行政間交流を通じて、亀岡市民に天然記念物アユモドキを再認識してもらおう一助になることを願っています。

4. 協働の効果

※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。

事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。

5. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
----------	--

今回の事業展開については、岡山でのアユモドキについての情報収集を中心として、小学校での人工繁殖の取り組み、ESDによるユネスコスクールの展開、学校関係者、行政の取り組みを見て、その後、亀岡市内での報告会（文化資料館での講演会・岡山市立千種小学校の学校関係者の招致）や亀岡市環境フェスタでの事業啓発を行ってきました。

今後は、まず、次年度については、亀岡市内2小学校（城西・保津）の啓発飼育の状況を見ながら、夏休みをターゲットに実際の岡山の小学校の子どもとの交流を検討したいです。

その後、出来れば2年後には、岡山と亀岡の小学校間での交流を実現させたいです。子ども同士の交流が出来、新しいアユモドキの取り組みを歓迎する形で事業展開が出来れば素晴らしいと思います。

NPOとしては、今回の活動が、日本に、世界に、2か所しかいない「アユモドキ」を子どもレベルから保全啓発できる「さきがけ」となることを望みます。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

生息地・亀岡と岡山 子らに活動伝え

アユモドキ交流広げ

国の天然記念物アユモドキが生息する亀岡市と岡山市の保全活動関係者が、両市の子どもたちを巻き込んだ交流事業に乗り出した。両市の関係者が相手の市の子どもたちに魚の特徴や保全の取り組みを伝え、将来は子ども同士の相互訪問を目指す。亀岡の関係者は「交流を通じて、子どもたちにアユモドキへの関心を深めてもらいたい」と意気込んでいる。

NPO 来月8日に環境教室



アユモドキの呼びとやまに記念撮影する
岡山市東区の千種小児童と二亀岡 人と自然ネットワークのメンバーら同 トワ

「関心深める契機に」

NPO「亀岡 人と自然のネットワーク」が、「アユモドキ架け橋プロジェクト」と名付けて取り組んでいる。

アユモドキは国内では亀岡市と、岡山市の旭川水系と吉井川水系にしかない。岡山では、保護団体が休耕田を借り上げて成育環境を守り、地元小学校でも人工繁殖に取り組みなど、先進的な保全活動を進めている。

6月に亀岡のNPOメンバーら4人が岡山の2小学校を訪問。人工繁殖の方法などを見学したほか、亀岡側からは魚の保全状況や江戸時代の文献などでくるとアユモドキなど文化史的な内容を見事に説明した。

8月8日には岡山の小学校校長を亀岡に招き、市文化資料館で飼育について語ってもらった。夏休みアユモドキ環境教室を開く。10月の環境フェスタでも岡山で撮影した映像を流し、現地の保全活動の様子を伝える。

紹介する。
ネットワークの増田 浩副代表理事は「岡山の話を通じて、亀岡の子どもたちにもアユモドキ保全を考えてほしいと話している。午後2時〜4時。無料。申し込みは31日までに市文化資料館 0771-2220599。(久保田昌洋)

事業報告書

団体名：特定非営利活動法人 プロジェクト保津川

1. 事業名	これからの地域を担う次世代人材育成事業「じぶん未来塾」
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)

<目的>

「インバウンド」を念頭に置き、恵まれた資源を未来につなぐ若者の視点から、豊かな亀岡の自然・文化遺産を再認識し、「市民共通の価値」を創出することをめざして若者が自由に議論できる「場」を開設する。

<内容>

- ① 観光を切り口に、「亀岡」のイメージを具体化する
- ② 塾生のお薦め観光ポイントのプレゼンテーション
- ③ アンケート調査の実施体験とパソコンを使った分析手法の学習
- ④ 外国人観光客の最新の動向と先進地の取り組みの学習

<実施事業>

1) 高校訪問 (塾の主旨説明と案内チラシの配布依頼)

8月6日 亀岡高校・南丹高校、8月10日 園部高校

2) 生徒・保護者向け説明会 ①9月24日 ②9月25日 ③9月26日

3) 講座実施実績

<じぶん未来塾> *参加者数は別紙参照

毎週木曜日午後5時～7時、ふらっとHOUSE2階会議室で開講

10月…1・8・15・22・29日

11月…5・12・19・26日

12月…3・10・17 (12/17:「第1回世界じもとーくないと」)

1月…14・21・28 (1/21:「第2回世界じもとーくないと」)

2月…4・18・25

3月…3・10・17・24 (3/24:「第3回じもとーくないと」)

※世界じもとーくないと:外国人や社会人も交えて、「地元」をPRするプレゼンを行い議論する公開講座

<じぶん未来塾校外学習>

10月31日:亀岡マルシェ来場者アンケート調査

11月15日:保津川下り乗船客アンケート調査と保津川下り体験

3月23日:先進地視察(宇治市)

平等院・宇治上神社・対鳳庵(抹茶体験施設)、商店街、観光協会案内所の見学、鶴匠による日本初のウミウ人工孵化の取り組みの解説など

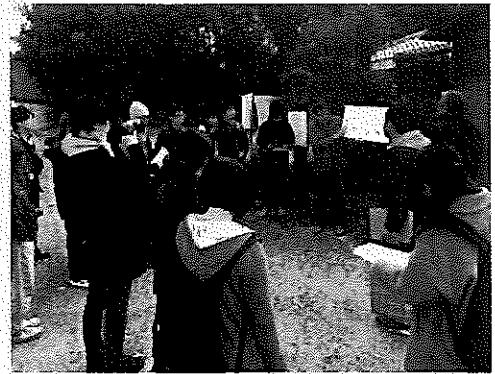
3月24日:じもぶら ～まいまい亀岡編～



以倉敬之氏（まいまい京都）を講師に招き、亀岡のまち歩きを体験し、若者の視点で亀岡の新しい魅力を発掘し、地域の観光資源について学んだ。

3月31日：先進地視察（高槻市）

高槻ジャズストリートの取り組みを、北川潤一郎（高槻まちづくり株式会社代表取締役社長）にインタビュー調査を実施した。



3. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

本事業では、塾生自らが亀岡のまちを歩き、自分の好きな「風景」をどのように外国人も含めた観光客にアピールするか、自ら考えることで亀岡市のシティ・プロモーションの「柱」となる「地域の宝物」を見出すことを目指した。

講座では、まず講師より外国人旅行者をめぐる最新の動向を紹介した後、塾生自らがアンケート調査を実際に体験するとともに、その分析手法についてもパソコンを使用して実習形式で学んだ。また、留学生が講師として参加し、それぞれの出身地の「お国自慢」を聞くことで、相互理解を深めるとともに、海外で広く日本や亀岡を紹介することを担える人材を育成することに努めた。また、塾の運営自体を参加者の高校生や大学生の提案をもとに進めることで、学生たちの自主性を伸ばすことに努めた。当初は、自ら進んで発言できなかった学生たちも、終了時には積極的に発言するようになり、「これからやってみたいこと」を明確に述べられるようになり、漠然としていた自身の将来像が明確になってきた。こうした点から、目標に掲げた「就業力」の育成についても一定の成果があったと考えられる。

また、「お国自慢」のプレゼンテーションを行う「世界じもとトークないと」や、まち歩きイベント「じもぶら」は、一般からの参加も広く募る公開行事としたところ、予想を大きく超える参加者があった（参加者数は別紙）。これらのイベントでは中学生から高齢者まで、また所属や職業、さらには国籍を超えた幅広い人が集まり、多彩な議論が交わされ、当団体にとっても今までにない関係性が築かれたことも大きな収穫であった。

4. 協働の効果

※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。

事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。

5. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
----------	--

今年度の「じぶん未来塾」は初めての試みということもあり、受講生募集や講座内容など全てが手探りの状態であった。来年度は、今年度の経験を踏まえて、内容をさらに改善して実施する予定である。

特に今年度は中学生の受講者はゼロであったが、受講生やイベント参加者へのヒアリングでは、開講時間を参加が難しい理由として挙げる学生が多かった。そこで来年度は、こうした声も踏まえて、受講生を高校生と大学生に絞って講座を実施したいと考えている。また、今年度の事業の中で希望の多かった英会話教室や各界で活躍する社会人の講演会なども定期的実施し、講座の魅力をより高めることとする。さらに、今後は市内各学校や各団体とのさらなる連携を強化し、企業等からの協賛金・寄付金を募るとともに、参加者の適正な自己負担額についても検討することで、自立した運営を目指す。

特に、将来的にはアクティブ・ラーニング(*)の地域における拠点(まちなかラーニング・コモンズ(仮称)(*))として市内各学校との連携についても検討・協議を進める予定である。さらに、それを具体化する方法として、本事業の卒業生が若手を育成する講師となる仕組みを構築し、長期的に自主的な運営が可能な体制を実現する。

* アクティブ・ラーニング:子供たちが討論やグループ学習などを通じて能動的に学ぶ学習方法のこと。次期学習指導要領の改訂の大きな柱の一つとなっている。

ラーニング・コモンズ:複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する支援スタッフによるサービスも提供する。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

京都新聞

10月7日

水曜日

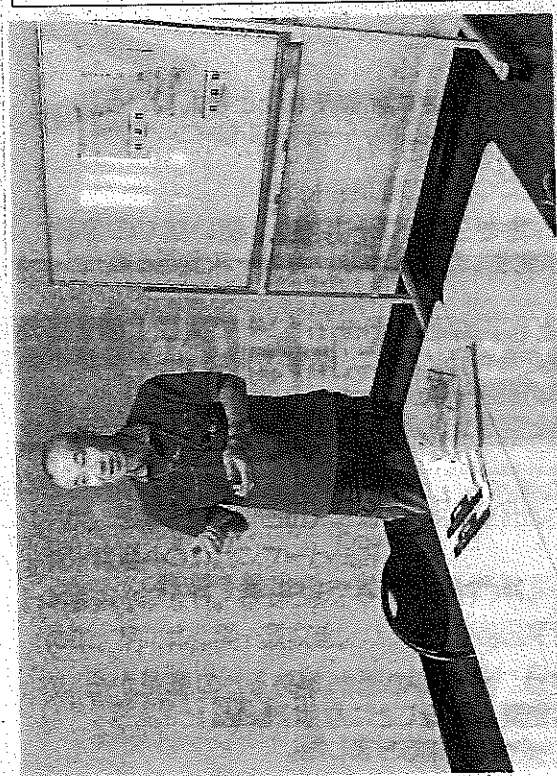


発行所 千604-8677
京都市中京区烏丸通河原町

観光担う若者育てたい

亀岡市のNPO法人「プロジェクト保津川」は、観光振興の人材養成を
目指し、中高生向けの塾「ふん未来塾」をこのほど開講した。観光関係
者や大学教員らが講師を務め、情報誌作成など実践的なワークショップも
行う。「産業発展だけでなく、若い人に地域の価値をあらためて知って
もらうことで定住促進にもつながりたい」と受講生を募っている。

亀岡のNPO「塾」開講



同法人は保津川の環境保
全とまちづくりを目指して
2007年に設立。美化活
動のほか、外国人観光客
の誘致など亀岡の観光振
興にも取り組んできた。国
内外からの亀岡への観光
客が増える中、地域の歴史
・文化を説明できる人材が
足りないと感じるから、
塾を立ち上げることにし
た。

講座は毎月1日に追分町
の「ふらっとHOUSE」

観光業の人材養成を目的に
開講された「ふん未来塾」
の教室（亀岡市追分町・ふ
らっとHOUSE）

「地域の価値を伝授」

で開講した。来年3月末ま
で毎週末曜午後5時～7時
に開く。講師陣として、同
法人代表理事の原田禎夫・
大阪商業大准教授や保津
川下り船頭の豊田寛司さ
ら元旅行代理店勤務で
海外からの観光客誘致に詳
しい西條繁さんのほか、今
後は市内の観光事業者も
招く。

講義形式の授業のほか、
参加者同士の自由討論や旅
行プランの提案なども行
う。留学生を迎えるの語学
研修や、先進地視察も予定
している。丹波地域在住の
中高生対象で、参加費1回
500円。

原田さんは「観光を切り
口に、世界に向けて発信が
でき、文化が異なる人と交
流ができる若者を亀岡で育
てていきたい」と目標を語
る。問い合わせはプロシエ
クト保津川まで077-1(2)
0-2369。

(久保昌洋)

丹波



事業報告書

団体名: 亀岡サンセットフェス実行委員会

1. 事業名	亀岡マルシェ
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください(日時、場所、参加者数、内容など)
	<p>実施日: 10月31日(土)午前10時～午後5時 11月1日(日)午前10時～午後4時 来場者数: 約3,000名</p> <p>●マルシェブース(出展 23店) 亀岡産の農産物・特産物を使った飲食ブース。 バリエーションに富んだ幅広いジャンルから募集。 リユーストレイ&シートを利用し、ごみを削減。</p> <p>●手づくり市ブース(出展 19店) アート・クラフト・ワークショップ・地元加工食品販売など 亀岡マルシェファーマーズ(野菜販売) (出展 1店)</p> <p>●亀岡マルシェステージ 木材(間伐材)を利用して作るステージ 関西のフェスやライブハウスで活躍するミュージシャンによる演奏(14組52名)</p>
3. 成果	<p>事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させる形で、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。</p>
	<p>●音楽やアートクラフトの発表の場が少ない 絶対的な発表の場が少ないことに対する解決は一気に行うことが出来ないが、イベントの定例化、他のイベントとの連携を今後も継続強化して行くことでこそ、解決への道筋となる。 その意味でも連続開催できたことは、大きな意義があったと考えている。</p> <p>●地域の第一次産業の衰退 来場者は少なかったが、亀岡の特産品、加工品の認知度を上げることに貢献できたと考えている。 実際に口にしたり触れたりできる場の提供は、インターネットや広告などのバーチャルなインパクトに勝るもので、こちらも継続開催が効果的となっていると考えている。</p> <p>●イベントごみの削減 第1回亀岡マルシェで、1日5,000人以上の来場者があった一方で、飲食ブースでは、使い捨ての容器(プラスチック容器や紙皿など)や箸、フォークなど大量のゴミが発生した反省から、「リユース食器と給仕シート」による洗浄が不要な食器等の導入を計画した。 その際に、保津川プロジェクトと協働して、「保津川の日」など市内の他の野外イベントで実証実験を実施し、出展者からは経費負担・ゴミ回収等の面においても大きな成果をあげるとともに、運営者側からも洗浄が不要で、従来のリユース食器にとって代わる方法ではないか、という評価を得た。 結果として、今年の亀岡マルシェでは45Lゴミ袋にして6袋と空き缶1袋のごみとなり、昨年と比較して1/2となった。 その後、このシステムは亀岡市内はもちろん、京都市内でのイベントにも活用されるなど、さらなる広がりを見せており、問い合わせも多い。</p> <p>●亀岡産低農薬・無機農薬野菜の販路拡大 具体的な大規模な商談は、残念ながら行われていないが、高槻職の文化祭への出展を依頼されており、地味だが効果は着実に表れていると考えている。</p> <p>当初予定していた太陽光発電による水ろ過機展示については、食中毒の恐れがあるとの意見から本年度は中止。飲食と手づくり市、間伐材ステージの3本柱で開催することになりました。 来場者数は前年に満たなかったものの、今年は品質の高いイベントになりました。</p> <p>■間伐材ステージ 長尾山部会、京筏組、トシ新町さんの協力もあり、間伐材で作られたステージは、亀岡の自然の風景にマッチした魅力的なステージになりました。 お客さんとして来場していたミュージシャンからも、「あのステージに立つ為にはどうしたらいいですか？」というお問い合わせをいただきました。 また、スキルの高いミュージシャンが出演され、音楽の質が高かった今年の亀岡マルシェ。 大自然の中で聴くジャズやブルースは観客のみならず、出展者さんも魅了されたとのことで、来場者の満足度はとても高かったようです。</p>

■ 亀岡マルシェブース

地元飲食店の皆さんの参加が増えました。ウェブで取扱店を紹介することにより、「亀岡の食材や加工品を使う」といったアナウンスが行き届いたように思います。スタッフが足りずエコブースに人を配置できなかったため、持ち込みゴミが発生してしまいました。しかし、リユーストレイ&シートの採用はごみ削減に大きく貢献。今後も引き続き採用する方向で考えています。

■ 手づくり市

地元の作家さんの参加が増えました。金券と現金の使い分けでお客様から一部苦情がありましたが、受付でしっかりアナウンス。出展者さんも「現金のみ」という貼り出しをして頂き、協力して問題を解決しました。

4. 協働の効果	※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。 事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。
----------	---

● 間伐材関連

間伐材の利用は、マルシェイベント単体では成しえないことであり、実際にステージに利用できたことは、間伐材の流通の可能性を探る大きな実例となったと考えている。また、ステージ利用後の再々利用を念頭にステージを組み上げるため、入念な打ち合わせが亀岡・山モノガタリ、宮田組と行うことが出来、結果として予定通り後流し、間伐材利用の細工物の研究に利用できたことは、間伐材の有効な利用という目的を理解した団体と協働できたことに尽きると考える。

● イベント企画関連

高槻ジャズストリート実行委員会の優秀なスタッフのヘルプにより、人数の足りないなかでのイベント開催がスムーズに行えたのは、とても大きなことだと考える。また、優秀なスタッフと一緒に作業をしたスタッフへの有形・無形の影響は、言葉では伝えられないことも伝わり、計り知れない好影響を与えてもらったと考えている。今後のイベントに大きく影響を与えると考えている。

5. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
----------	--

■ スタッフ確保

日々流動して行く中で、スタッフの確保とスキルある人を育てることが、今後の大きな課題。今年はスタッフ数が少なかつたにも関わらず、参加いただいたスタッフの皆さんのスキルに大きく助けられました。準備と片付けのスタッフについて激減傾向があり、準備・本番・片付けで班分けをしてみたいと思います。

■ 広報の強化

今年は、大阪・京都市内方面への広報が行き届いてなかったと反省。JRやトロッコ列車の利用を増やすべく、他府県への広報も力を注ぎたいと考えています。出展者さんやスタッフも広報部員として動いていただくことも検討中。

■ ステージで利用した木材利用

木材については、長尾山部会さんに引き取っていただき、薪として再利用されます。一部は京都市内オンフラワーショップでディスプレイとして利用されることになりました。また、少量の木材を保管して、今後加工研究を行い、亀岡のお土産物を作ればと考えています。

■ リユーストレイ&シートのレンタル事業

亀岡マルシェのその後、京都市内の環境系イベントで利用されました。来年度はウェブ制作に力を注ぎ、リユーストレイ&シートの告知をインターネットで告知して参りたいと思います。

■ 亀岡マルシェDVD作成

現在作成中。完成次第、広報資材・お礼として、関係者の皆様へ配布予定です。

※知来社参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。
※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

入場
無料



KYOTO KAMEOKA MARCHE

亀岡マルシェ2015 グルメ・音楽・手づくり市
京都府亀岡市保津川河川敷

10/31 11/1

SAT

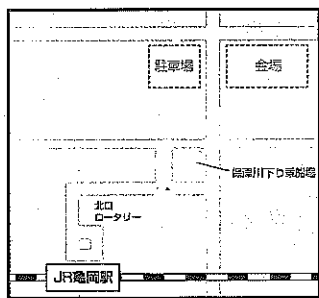
SUN

AM10:00-PM5:00 AM10:00-PM4:00

雨天中止：中止決定は30日正午までにホームページにてお知らせ致します。



亀岡マルシェでは
容器ゴミ削減のため
リユーストレイを
利用しています。



JR京都駅よりJR亀岡駅まで快速にて20分
JR亀岡駅北口ロータリーより徒歩10分



京都縦貫自動車道 亀岡ICより
亀岡駅方面に約10分



トロッコ亀岡駅から保津川下り乗船場まで約20分
保津川下り乗船場から徒歩5分

駐車場の台数に限りがあります。公共交通機関をご利用の上ご来場下さい。



京都府地産力再生活動

主催：亀岡サンセットフェス実行委員会
後援：亀岡市

お問い合わせ
info@sunsetfes.com

京筏組 | NPO 法人プロジェクト保津川 | 長尾山部会 | 保津川すいたん農園 | 亀岡・山モノガタリ
高槻ジャストリート実行委員会 | たかつき食の文化祭 | 次木音楽祭実行委員会 | 京都エシカルマルシェ
西院ミュージックフェスティバル | 大宮グッドフェスティバル | トラベル京都 | 株式会社レシピア



Facebook



Official

食器にシート敷きゴミ削減

バリ島の文化ヒントに考案



このシートは本格的な「コエ」の食器(回収洗剤)で清潔に保てる。食器と紙製の食器は紙製のシートで覆われ、その上には紙製の食器を置く。これにより、食器の汚れやゴミを減らし、清潔さを保つことができる。

イベントで使用するリユース食器と給仕シートを手に来場を呼びかけるジョニー・ブルース代表

今月末の亀岡マルシェで本格導入

飲食店営業のイベントなどで、必ずと言っていいほど主催者負担となるのが、「紙くずと食器」にも大きな影響がある。京都の低炭素は昨年より「リユース食器」を利用したことを日本食器協会が発表し、全国各自治体をめぐり、亀岡でも食器環境に配慮した新しい文字を本格導入するべく、10月31日、11月1日の両日、亀岡市保健所の保健所川河敷で開催される「亀岡マルシェ」だ。

【高橋健太】

防水性、耐油性に優れた紙使用

場と食くら持帰らな。本善は農業従事者目。今回のイベントでは、防水性、耐油性に優れた紙を使用したシートで、早人以上が楽々使うことができる。一方、飲食物品を紙皿や紙コップで提供し、紙皿や紙コップを回収して、専用の洗浄機で洗浄し、再利用して、繰り返し使用できるように仕立てた。イベントを主催するのは「亀岡マルシェ」の運営事務局。代表を務める高橋健太は、今年8月に設立した「リユース食器」を取り入れるイベントも開催している。高橋は、今年8月に開催された「亀岡マルシェ」で、紙皿や紙コップを使用したイベントを開催した。高橋は、今年8月に開催された「亀岡マルシェ」で、紙皿や紙コップを使用したイベントを開催した。

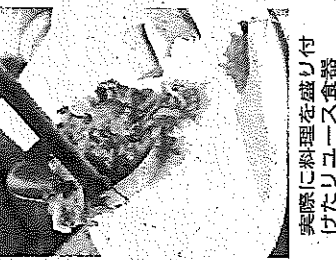
試験導入で評判は上々

近年は使い捨て食器を禁止して「コエ」食器を取り入れるイベントも増えている。高橋は、今年8月に開催された「亀岡マルシェ」で、紙皿や紙コップを使用したイベントを開催した。高橋は、今年8月に開催された「亀岡マルシェ」で、紙皿や紙コップを使用したイベントを開催した。



今年6月のイベントで試験的に利用されたリユース食器と給仕シート

亀岡版



実際に料理を盛り付けたリユース食器

今年8月に同じ場所で開催された「亀岡マルシェ」の手作り市初め、試験的に導入した。その結果、今年8月に開催された「亀岡マルシェ」の手作り市初め、試験的に導入した。その結果、今年8月に開催された「亀岡マルシェ」の手作り市初め、試験的に導入した。

田舎の良さ堪能して

音楽グループ14組が出演

亀岡マルシェ開催の当日は、音楽グループ14組が出演。田舎の良さを堪能して、音楽グループ14組が出演。田舎の良さを堪能して、音楽グループ14組が出演。田舎の良さを堪能して、音楽グループ14組が出演。

京都丹波産

亀岡市市民新聞社
〒621-0804 亀岡市長町1丁目2番地
TEL: 0771-277771 FAX: 0771-277772
http://www.city-naniwa.jp

1周年 美山路「酒の館」大石酒造
「酒」見学 無料 9:00~18:00
本館 TEL: 0771-24-0628 本館 FAX: 0771-24-0629

10月2日開催

5年

【男子】100級①中村友哉(大井)14秒04②永田大翔(千代川)③岸岡龍生(同)④村松俊(大井)⑤松本朔弥(同)▽50級①松本隼和(大井)▽走り高跳び①平野

15②岸岡龍生(同)③中野健二(同)④中野健二(同)⑤大倉代川▽走り高跳び①齋藤愛美(曾我部)3級31②未久優(千代川)③大倉優歌(曾我部)④安富遥音(千代川)⑤森田真菜(大井)▽走り高跳び①平野

【女子】100級①山井瑚乃(大井)1級10②下

【400級リレー】男子

【男子A】(6年生及び希望者対象、27組出場)①片岡晴紀(和田山J)②広岡大河(三田J)③三方将統(舞鶴ひまわり)・足立翔紀(同)④濱本莉輝(八幡スホ少)・中尾侑貴(同)・堀谷優友(和田山J)・中野恵多郎(同)

【男子B】(5年生以下対象、35組出場)①今西侑真(クレイJ)②高垣佳弘(同)③本郷岳(綾部J)④吉和田恭平(同)⑤千場蘭十朗(祥栄STC)⑥谷階月(同)・今村宏輝(梅小路)

【女子A】(6年生及び希望者、30組出場)①青松淑佳(SHTJ)②久留紅(朱三SC)③柴田七海(舞鶴ひまわり)④市川満瑠華(同)⑤澤井萌々子(宇治J)⑥山住菜央(同)⑦加藤佑都(舞鶴ひまわり)・渡辺心

【女子B】(5年生以下希望者対象、57組出場)①加藤七菜(舞鶴ひまわり)②谷口新紗(同)③三方晴楓(舞鶴ひまわり)④高瀬美侑(同)⑤柴田凜(福知山J)⑥浜中陽(同)⑦松林由和(舞鶴ひまわり)⑧足立知優(同)

環境配慮型のイベント 「亀岡マルシェ」

保津川河川敷でリユース食器など使って

環境に配慮しつつ亀岡の魅力を感じてもらおうとイベントの第2回「亀岡マルシェ」がこのほど、亀岡市保津町の保津川河川敷で開かれた。マルシェとはフランス語で「市場」の意味。会場の河川敷には親子連れなどが2日間、計3千人(主催者



間伐材を利用したステージで緑り広げられたライブ(写真はいずれも保津町の保津川河川敷で)

環境に配慮しつつ亀岡の魅力を感じてもらおうとイベントの第2回「亀岡マルシェ」がこのほど、亀岡市保津町の保津川河川敷で開かれた。マルシェとはフランス語で「市場」の意味。会場の河川敷には親子連れなどが2日間、計3千人(主催者



亀岡の食材を生かした各種の飲食コーナーも店開きした

「ジュニア・フル」代表)。第1次産品と環境に着目する「リユース食器」とともに、地場産野菜を「給仕」した飲食を味わいながら「表現者」のステージを楽しんでもらう。今年3月の若者たちのイベントを催しに続いて今回も市も後援して盛り上げた。【今井良和】

【男子】(6年生及び希望者対象、27組出場)①片岡晴紀(和田山J)②広岡大河(三田J)③三方将統(舞鶴ひまわり)・足立翔紀(同)④濱本莉輝(八幡スホ少)・中尾侑貴(同)・堀谷優友(和田山J)・中野恵多郎(同) 【男子B】(5年生以下対象、35組出場)①今西侑真(クレイJ)②高垣佳弘(同)③本郷岳(綾部J)④吉和田恭平(同)⑤千場蘭十朗(祥栄STC)⑥谷階月(同)・今村宏輝(梅小路) 【女子A】(6年生及び希望者、30組出場)①青松淑佳(SHTJ)②久留紅(朱三SC)③柴田七海(舞鶴ひまわり)④市川満瑠華(同)⑤澤井萌々子(宇治J)⑥山住菜央(同)⑦加藤佑都(舞鶴ひまわり)・渡辺心 【女子B】(5年生以下希望者対象、57組出場)①加藤七菜(舞鶴ひまわり)②谷口新紗(同)③三方晴楓(舞鶴ひまわり)④高瀬美侑(同)⑤柴田凜(福知山J)⑥浜中陽(同)⑦松林由和(舞鶴ひまわり)⑧足立知優(同) 【学童A】3回戦①岩瀨少年野球クラブ3②池内少年野球クラブ4③岩瀨少年野球クラブ2④大宮ドリムス(岩瀨少年野球クラブの抽選勝ち) 【学童B】敗者復活3回戦①南舞鶴スポーツ少年団4②中筋少年野球クラブ

事業報告書

団体名：特定非営利活動法人 みんなのネットワーク

1. 事業名	アユモドキの保全と京都サンガの応援事業
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)

I. 地域の環境保全とにぎわいづくりに関するロゴマーク作成事業

1. 実行委員会設立と実行委員承諾のお願いに、京都府庁、亀岡市役所、保津町自治会、京都サンガFC、亀岡商工会議所を訪問し賛同を得る。(平成27年5月8日～10日、坂本、大平)
 ロゴマーク募集に当り、京都サンガFC、今井社長よりサンガのキャラクター他の組み込みOKの了解をいただく。亀岡商工会議所からも、明智かめまるの組み込み許可をいただき、アユモドキとのコラボレーション体制の枠組みができる。
2. 京都スタジアムの進捗状況とこの事業をリンクして考えるために、京都府庁、府民力推進課、スポーツ施設整備課を訪問、状況とアドバイスをいただく。(5月28日、坂本、大平)
 6月9日の府庁における第三者委員会も傍聴の機会を得る。この間、亀岡市役所からも連携いただく。
3. 第1回実行委員会開催、9月9日亀岡市役所市民ホールにて、(議事録添付)
 ロゴマークの公募スタートの目標11月1日とし、公募の条件等を細部計画展開していくこととする。
4. 入賞者への賞品として、亀岡をPRするための特産品の提供を各社にお願いし力強い協力と賛同を得た。
 (保津町すいたん農園、木曾精肉店、片山商店、保津川遊船、嵯峨野観光鉄道、後に京都サンガFCも提供いただく)9月15日応援体制整う。
5. ロゴマークの公募条件をつめて決定する。10月20日 告知ツール確保、宣伝活動の実施
 チラシの新聞折込み実施、亀岡市内、11月8日(選挙の関係で1週間ずらす)(チラシ添付)
 WEBサイトへの計上11月8日、(アウトプット添付)、月刊「公募ガイド」への掲載(無料)(資料添付)
 チラシのイベント会場での配布(11月8日西京極、12月5～6日亀岡ハーフマラソン、等々)
 関係機関でのチラシ配布ご協力いただく(府庁、市役所、応援いただく関係団体、企業)
6. 応募状況低調に付きフォロー、各所PRに巡回し応援依頼、12月、1月満遍なく実施>
7. 応募締め切り、1月30日、応募点数90点に到達(期待値は400点)
 応募内容分析について(別紙添付)
8. 応募者への礼状と作品展示のお知らせ実施73人、2月3日
9. 作品展示と市民審査の実施 2月5日～15日ガレリアロビーギャラリー、投票458人
10. 専門家審査の実施 2月19日 ガレリアかめおか3階会議室にて3名の先生により決定
 最優秀賞1点 優秀賞2点 関係者、実行委員、入賞者には速報で伝達
11. 表彰式の実施、2月27日「アユモドキの保全と街づくりシンポジウム」と一部、二部開催 55人
 桂川亀岡市長、石野南丹広域振興局長はじめ協賛各社の社長列席いただく(資料添付)
12. 入賞作品のデータ化完了 3月14日、事務局にて修正箇所検討、専門家に委託(資料添付)

II. 寄付付きグッズの運用に関わる寄付制度の調査研究や事前調査

1. 寄付の知識修得のための教材「クラウドファンディング」山本純子さん、事務局で廻し読み研修
2. 日本ファンドレイジング協会主催「寄付白書2015出版記念シンポジウム」に参加(坂本、大平)
 初めて寄付の実態があきらかになった。また、日本NPOセンター、日本財団、笹川スポーツ

財団にて資料収集やヒヤリングを実施（11月26日、東京にて）

3. 身近なグッズの販売状況として、京都サンガFC、亀岡商工会議所、（かめまるグッズ）内藤印刷さんの状況をお聞きした。売れ筋としてはTシャツ、小物グッズ（ストラップ、縫いぐるみ等）絵葉書（かめまるシール付き）に集中しており、今後のグッズ開発の参考としたい。

* 寄付制度については、別途記載していますが当地においては個別ではなく行政の制度と連携することが定着への近道と考えられる。

III. 環境教室の開催（資料はアユモドキ保全協議会のもの活用させていただく）

1. 12月29日、サッカー協会の練習納めの時間いただき、保津グラウンドで実施35名（写真添付）

2. 1月7日、サッカー協会の練習始めの時間頂、月読グラウンドにて25名

3. 2月27日、アユモドキ水槽にて展示、表彰式当日に市担当者の協力によりガレリアかめおか響ホール前に二つの水槽にてパネルと共に展示、当日表彰式やガレリアに訪れた沢山の方々に啓蒙、PRすることが出来た。

3. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

3年計画の初年度として

ロゴマークの応募件数は当初、400点程度の応募を期待したが実績は90点と想定を下回った。

- ・公募内容で、アユモドキ、かめまる君、サンガキャラクターを入れるなど、応募者には発想を限定化してしまったかもしれない。実際の応募は内容的にハイレベルのものが多かった。
- ・応募者の分析では、亀岡市内の方が59%、府下の方26%、他府県の方15%あった。WEBや月刊誌掲載の効果もあって亀岡市外から40%程度の応募があったことは、亀岡市以外の方にアユモドキ、京都サンガ、京都スタジアムを知って頂いた機会になったと思われる。

地元亀岡市民の気運の高まりや、京都スタジアムを核としたにぎわいづくりへの事業としての貢献

- ・必ずしも目に見える貢献は把握し難いが、この事業を通じて協賛いただいた各企業の方々や関係者の今回の事業に関する協力姿勢は高いものがあったといえよう。今後のこの事業の推進に関して明るい要素と思われる。

4. 協働の効果

※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。

事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。

関係の行政当局への連絡調整、市役所会議室の確保などが容易であったことは行政側とタイアップしたことで協働の効果といえよう。また、表彰式やシンポジウム開催時でアユモドキ水槽の展示などが実現したことも行政側の協力によるものであった。しかし、行政連携の具体的なあり方は行政側も法人側も十分、理解していない状況のもとでの協働であり、試行錯誤的な取り組みであったといえよう。

5. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
2年目に向かって 当初計画	平成28年度の重点取り組み計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. グッズ試作品の作成 パンフレットの作成 グッズの評価アイテムの追加検討 2. 広報、啓蒙、啓発活動 開発シール活用各企業との連携 市民団体、自治会関係への働きかけ 観光客、西京極競技場での啓蒙 川柳の募集による意識向上 3. イベント関係 サッカー教室 サンガ選手団との交流 4. 寄付制度の研究 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 意識高揚への広報活動 <ol style="list-style-type: none"> ①ロゴマーク最優秀作品の愛称公募 WEB. 広報により実施 ②公報誌による啓蒙、PR (行政連携依頼) ③パンフレットによるPR活動 2. PRシール開発と亀岡からの宣伝、情報発信 <ol style="list-style-type: none"> ①小シール開発、特産品、文書等への添付 ②中シール開発、車に添付、動く広報宣伝 (将来は観光資源化へ) 3. 寄付制度の設計 4. 京都サンガFC応援への協力と連携
	(グッズ開発については認知度向上後取り組み)

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

「アユモドキの保全と京都サングの応援事業」実行委員会のメンバー

役職名	氏名	団体名・役職
実行委員長	坂本 信雄	特定非営利活動法人みんなのネットワーク理事長
副実行委員長	塚田 勇	亀岡市保津町自治会会長
副実行委員長	中村 昌博	亀岡商工会議所専務理事
事務局長	大平 龍雄	特定非営利活動法人みんなのネットワーク
事務局	山本 敏広	京都府文化スポーツ部スポーツ施設整備課長
事務局	桂 政彦	亀岡市政策推進室長
事務局	鶴羽 健大	(株)京都パープルサング育成・普及部マネージャー
事務局	松本 崇寛	亀岡市サッカー協会副理事長
事務局	高屋 吉昌	亀岡商工会議所総務課長
事務局	松尾 清嗣	特定非営利活動法人みんなのネットワーク
事務局	藤村 公平	特定非営利活動法人みんなのネットワーク
事務局	児嶋 きよみ	特定非営利活動法人みんなのネットワーク
事務局	井上 吉朗	特定非営利活動法人みんなのネットワーク

寄付付きグッズのロゴマークデザイン募集

京都府亀岡市に2018年4月、球技専用の「京都スタジアム(仮称)」が開設されます。そこで、「京都サンガF.C.」を応援すると共に、施設の近くに生息する国の天然記念物、アユモドキなどの希少生物の確かな保全にむけ、寄付付きグッズを開発することになりました。このグッズに使用するロゴマークのデザインを募集します。

対象者 どなたでも応募できます。

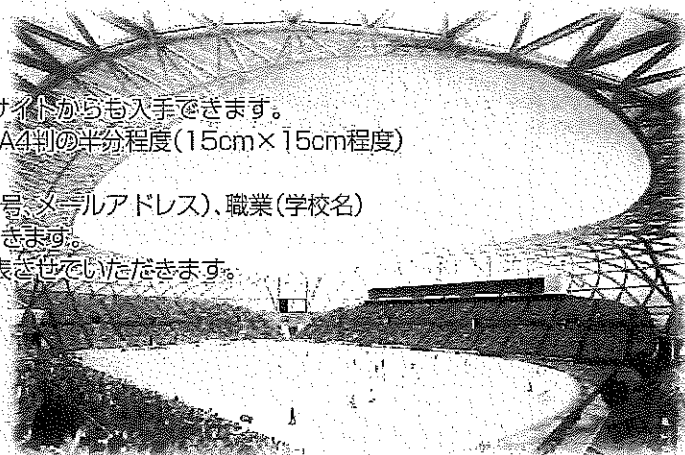
締め切り 2016年1月30日(土) 必着

募集する作品のイメージについて

- 京都サンガF.C.のクラブマスコット「パーサクン」と「コトノちゃん」、亀岡市の観光マスコットキャラクター「明智かめまる」などをロゴマークに組み込むことも可能です。
- ロゴマークは、カラーで作成して下さい。縦横比や色数の制限はありません。ただし、決定したロゴマークの色数を変えて使用する場合があります。

応募方法

- (1) 応募は必ず郵送にて行ってください。また、応募要領はWEBサイトからも入手できます。
- (2) 募集用紙または、A4判の白い用紙で応募してください。作品はA4判の半分程度(15cm×15cm程度)とし、作品上部に「上」を記載してください。
- (3) ①郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、性別、連絡先(電話番号、メールアドレス)、職業(学校名)
②応募作品について説明文(200字内)を記述することができます。
入賞作品については、お名前、職業(学校名)、作品の説明を公表させていただきます。
- (4) 応募点数は1人につき3点までとします。
- (5) 応募作品は、応募者自身の未発表作品に限ります。
- (6) 応募いただいたロゴマーク案、資料等は返却しません。



応募先住所 〒621-8799
亀岡郵便局私書箱第25号
アユモドキの保全と京都サンガの応援事業実行委員会 「寄付付きグッズのデザイン募集」係

審査方法 市民による審査の後、専門家を含む有識者による審査を経て決定します。

賞品

最優秀賞(採用作品) 1点	亀岡特産品A、亀岡牛特選肉及び関連商品+春の保津川下りペアー乗船券(合計5万円相当)
優秀賞 2点	亀岡特産品B、保津町すいたん農園特産品詰め合わせセット+亀岡地域ブランド認定品、丹波黒豆味噌詰め合わせセット+春の嵯峨野トロコ列車ペアー乗車券(合計3万円相当)

採用作品の発表 2016年3月を目処に入賞者に通知の上、ウェブサイト上で発表します(ただし、審査の都合上、発表時期が変更になる場合があります)。

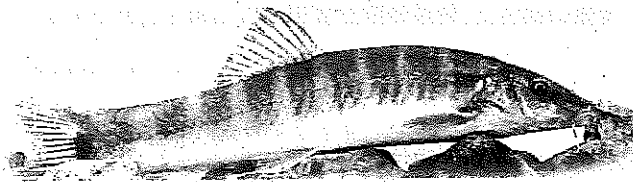
- 注意事項**
- (1) 応募ロゴマーク案は、国内外で未発表であり、著作権や商標権その他の第三者の権利を侵害するおそれがないものとしてください。
 - (2) 公序良俗その他法令の規定に反するもの、誹謗中傷を含むもの、著作権や第三者の権利を侵害しているものは、審査の対象外となります。また、採用後であっても、これらの条件に違反していたことが判明した場合、採用は無効となります。また、ロゴマークが類似と認められる場合も、採用を取り消す場合があります。これらに伴い発生するトラブル、損害などは主催者では負いかねますのでご留意ください。
 - (3) 採用したロゴマーク案に修正を加える場合があります。
 - (4) 応募作品に関する著作権、使用权など一切の権利は、全て主催者に帰属します。
 - (5) 応募者の個人情報応募者に許可なく第三者に開示・提供しません。
 - (6) 受付通知及び不採用通知は行いません。また、審査過程のお問い合わせには対応できかねますので、ご了承ください。

お問い合わせ先

主催 : アユモドキの保全と京都サンガの応援事業実行委員会
事務局 : 特定非営利活動法人みんなのネットワーク
電話 : 070(6922)5132、もしくは070(5432)1913 (いずれも平日10時~17時)
メールアドレス : oubo@ayumodoki-sanga.jp
WEBサイト : <http://www.ayumodoki-sanga.jp>

寄付付きグッズのロゴマークデザイン募集用紙

ロゴマークデザインの意図



応募者	住所	〒			職業		
	ふりがな				学校名		
	氏名				学年		
	年齢	歳	性別		TEL		
				メールアドレス		FAX	

ロゴマークの選定

アユモドキの保全と京都サンガの応援事業

貴方も審査員です!



応募作品の展示

2月5日(金)~2月15日(月)

場 所

ガレリアかめおかロビーギャラリー

市民審査

88点展示 備え付け用紙にて投票してください

最終審査

専門家による審査を経て決定します



【審査員の方々】

審査委員長 栗本夏樹氏 京都市立芸術大学教授
審査委員 真下俊威氏 京都府立亀岡高校教諭 (美術・工芸専攻主任)
審査委員 岡本健一氏 亀岡市立亀岡中学校教諭 (美術担当)

表彰式

と き : 2月27日(土)12時30分から

と ころ : ガレリアかめおか響ホール

最優秀賞受賞者及び優秀賞受賞者に亀岡市長から賞品がそれぞれ授与されます。

シンポジウムの開催

と き : 2月27日(土)13時15分~14時45分

と ころ : ガレリアかめおか響ホール

平成27年度 森の京都音楽祭協賛イベント



【開催趣旨】

アユモドキを亀岡の宝物、日本の宝として今後も大切に保全を行い、次世代に引き継いでいくために、どのような工夫がなされるべきか?これまでの取り組みとその課題、将来へのアプローチ、さらに街づくりのあり方について関係者が語ります。スタジアム建設のこの機会に進め方について皆で考えてみましょう!

【パネリストの皆さん】

塚田 勇氏 亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会会長
仲田 丞治氏 丹波淡水魚研究会代表
楠 敬氏 (一社)亀岡青年会議所副理事長(青少年事業担当)

コーディネーター 坂本 信雄 京都学園大学名誉教授

主 催 : アユモドキの保全と京都サンガの応援事業実行委員会
事 務 局 : 特定非営利活動法人みんなのネットワーク
電 話 : 070 (6922) 5132、もしくは 070 (5432) 1913
メー ル ア ド レ ス : oubo@ayumodeki-sanga.jp
W E B 頁 : http://www.ayumodeki-sanga.jp

ロケット募集します

民間主導の実行委

京都スタジアム(仮称)に活用

主権するのはアエモトキの保全と京都サンガF.C.の応援事業実行委員会。NPO法人みんなのネットワーク(理事長・坂本信雄・京都学園大学名誉教授)が事務局を務め、地元の保津町自治会や亀岡商工会議所の関係者などが参画する。

京都サンガF.C.を応援するとともに、施設の近くに生息する国の天然記念物アエモトキなどの希少生物の確かな保全を実現し、平成30年4月開設に向けて計画が進む「京都スタジアム(仮称)」を



京都サンガF.C.のクラブスコット・パーサくん、「トノちゃん」



国天然記念物のアエモトキ

アエモトキ保全 サンガ応援

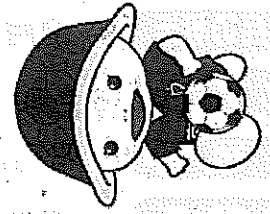
亀岡市への球技専用スタジアム建設計画が進む中、「アエモトキの保全」と「京都サンガF.C.の応援」の機運を高めようという取り組みが、民間主導の実行委員会形式で動き出した。第一弾の取り組みは「寄付つきグッズ」の開発。同実行委はこのほどグッズに使用する「ロケット」のデザイン募集を始めた。年齢・住所などを問わず誰でも応募可能。作品は1人3点まで、自作未発表に限る。

【高橋健太】

寄付つきグッズ開発目指す

「ロケット」のデザイン募集を希望しており、京都サンガF.C.のクラブスコット・パーサくん、「トノちゃん」亀岡市の観光マスコット「明智かめまる」を組み込むことも可能。縦横比や色数の制限はない。応募の受け付けは郵送のみ。所定の応募用

紙がA4判の白紙に作品を描き、必要事項を記入して「ロケット」

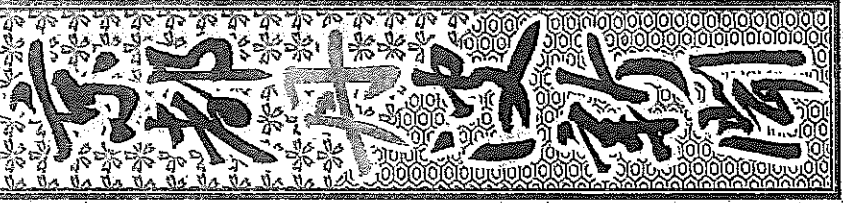


観覧の観
光マスコット「明智かめまる」



桂川市政がス

1日の亀岡市長選挙で初当選した桂川孝裕市長が9日に初登庁し、桂川市政がスタートした。同日朝の初登庁式では、市職員らに「挑戦する市役所職員であってほしい。市制60周年の節目に亀岡の



発行所 亀岡市 新報社
〒621-0804 亀岡市北分町
電話 (0771) 248822
FAX (0771) 248822
http://kyotan.city-news.jp/
mail: kyotan@city-news.jp

1周年
美山路「酒の」
「酒蔵」見学・無料AM 9

1870
局長
モトキ
ンガの
員会
のデ
郵送
市民
門家

事業報告書

団体名：万願寺ふれあいサロン

1. 事業名	万願寺ふれあいサロン
2. 実施内容	<p>実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)</p> <p>① 平成27年08月30日(日) 万願寺区公民館 11名 第1回設立会・茶話会</p> <p>② 平成27年10月06日(火) 万願寺区公民館 14名 ギターの演奏で童謡などを一緒に歌う 講師：桑田あきら様</p> <p>③ 平成27年10月27日(火) 万願寺区公民館 13名 認知症予防講座・スリーA 講師：しょうらくの会様</p> <p>④ 平成27年11月17日(火) 万願寺区公民館 10名 介護の申請からサービスについて学ぶ 講師：介護相談リンクす様</p> <p>⑤ 平成27年12月11日(火) 万願寺区公民館 11名 忘年お楽しみ会：カラオケと食事会</p> <p>⑥ 平成28年01月19日(火) 万願寺区公民館 10名 新年初笑い会：楽しい腹話術 講師：高屋</p> <p>⑦ 平成28年02月23日(火) 万願寺区公民館 8名 楽しいゲームをした 安全ボーリング・特大トランプ</p> <p>⑧ 平成28年03月29日(火) 万願寺区公民館 13名 決算報告会・茶話会</p>
3. 成果	<p>事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。</p> <p>当地区住民ではほぼ全て65歳以上の高齢者が占める割合が高く、多くの高齢者が外出等を控えがちで有る為、健康・長寿で楽しく暮らせる為に平成27年8月より始めた「万願寺ふれあいサロン」8~14名の参加が有りコミュニケーションを図る事が出来た。</p> <p>参加率：36%</p>

平成 27 年 10 月 15 日

おしらせ

万願寺ワンコインカフェ

第3回 万願寺ふれあいサロン

「楽しい!! スリーA 認知症予防に必要な事」

開催のご案内

日時：10月27日(火)午後1時半より3時半 万願寺公民館

下記の内容で第3回「万願寺ふれあいサロン」を開催致します。

※参加費は100円です。

スリーAとは

Aあかるく **A**あたまを使って **A**あきらめない

認知症予防の三本柱

大黒柱は
優しさの
シャワー

優しさのシャワーとは・・・。
自然で穏やかに包み込む様な心配り、
ニコニコ笑顔で目を見て話す、認める事が
元気とやる気のパワーにかわります。

脳活性化の
楽しい
ゲーム

脳活性化のリハビリゲームで、様々な
脳の機能を同時に心地よく活性化します。

お腹の底から
大笑い
が重要です。

出来たら嬉しくて。でも間違えても
いいのです！
皆で自然と大笑いできる事が重要です。

講師は、しょうらくの会さんです

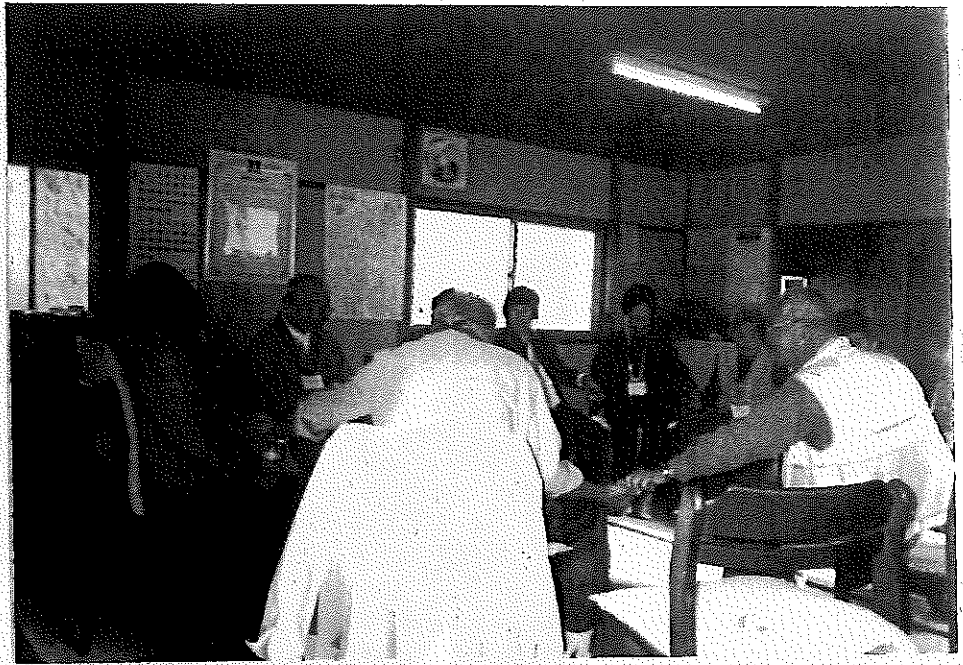
「軽い体操・歌・ゲーム・・・が、あります」

【亀岡市支えあいまちづくり協働支援金交付事業】

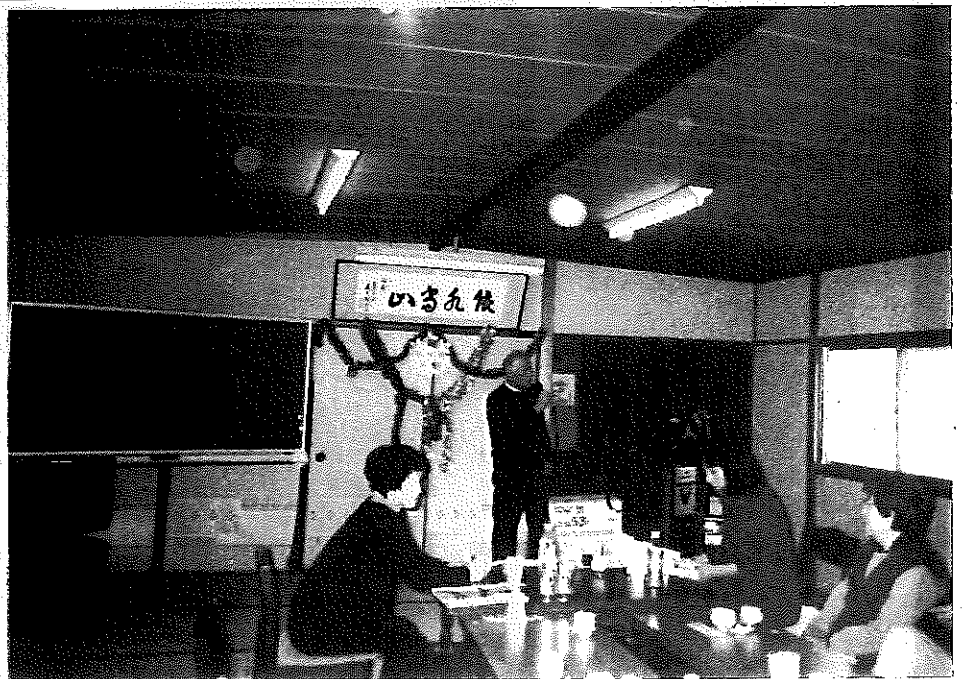
お問合せ

万願寺ふれあいサロン 代表 長澤 豊 27-2215 副代表 中嶋フサ子 27-2385

30



5 (2)



事業報告書

団体名：亀岡市遺族会女性部

1. 事業名	戦後70年 平和の尊さ祈念し 千羽鶴おりとDVD制作																												
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)																												
<p>①千羽鶴おり 4月～28年2月まで折り鶴作成 総合福祉センター遺族会事務室及び かめおか市民活動推進センター会議室於 亀岡市戦没者追悼式に奉納 9月19日</p> <p>4/16 8人165羽、4/17 3人63羽、5/8 11人12羽、6/12 7人156羽、 6/18 5人139羽、7/21 6人143羽、9/2 6人166羽、9/16 6人130羽、 9/25 8人164羽、10/9 8人170羽、11/17 9人170羽、11/20 8人1 72羽、12/21 10人11羽、1/26 8人164羽、2/8 2名38羽 このほか、400羽以上自宅作成あり</p> <p>②DVD制作 4月～8月～28年3月 下準備活動 事業内容打合せ 確認 問い合わせ スケジュール調整 4月～3月 取材・撮影</p> <table border="0" data-bbox="343 1075 1324 1400"> <tr> <td>9/19</td> <td>亀岡市戦没者追悼式</td> <td>ガレリアかめおか</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>10/9</td> <td>山脇愛様</td> <td>ガレリアかめおかサービス</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>10/13</td> <td>栗林のぶゑ様</td> <td>特養第二亀岡園</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>10/26</td> <td>平井志づ江様</td> <td>ご自宅</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>11/13</td> <td>八木初子様</td> <td>ご自宅</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>11/17</td> <td>井内ふじゑ様 (前婦人部長)</td> <td>ムツミ病院サービス</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>12/21</td> <td>亀岡市遺族会総会&懇談会</td> <td>市民ホール</td> <td>10名</td> </tr> </table> <p>編集 4月～9/19～3月</p>		9/19	亀岡市戦没者追悼式	ガレリアかめおか	8名	10/9	山脇愛様	ガレリアかめおかサービス	6名	10/13	栗林のぶゑ様	特養第二亀岡園	6名	10/26	平井志づ江様	ご自宅	7名	11/13	八木初子様	ご自宅	5名	11/17	井内ふじゑ様 (前婦人部長)	ムツミ病院サービス	7名	12/21	亀岡市遺族会総会&懇談会	市民ホール	10名
9/19	亀岡市戦没者追悼式	ガレリアかめおか	8名																										
10/9	山脇愛様	ガレリアかめおかサービス	6名																										
10/13	栗林のぶゑ様	特養第二亀岡園	6名																										
10/26	平井志づ江様	ご自宅	7名																										
11/13	八木初子様	ご自宅	5名																										
11/17	井内ふじゑ様 (前婦人部長)	ムツミ病院サービス	7名																										
12/21	亀岡市遺族会総会&懇談会	市民ホール	10名																										
3. 成果	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。																												
<p>2015年は、戦後70年を迎えた年でした。</p> <p>戦争未亡人の超高齢化が進む中、亀岡市遺族会女性部が中心となり、大事な遺族の証言等を後世に残すため、音声と映像等をDVDに記録しました。</p> <p>多くの暖かい協力下さる人々のおかげで、5名分のデータ収集ができました。</p>																													

4. 協働の効果	<p>※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。 事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。</p>
5. 今後の展開	<p>事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。</p>
<p>大きな目標であるDVDの見本が制作出来ました。</p> <p>今後、新年度では、配布のためのDVD作成に取りかかります。</p> <p>新年度でのDVD作成の暁には、『まず隗より始めよ』のとおり、戦争未亡人のご家庭、遺族会女性部役員家庭、ご遺族の家庭、遺族会各支部、亀岡市遺族会等に配布します。</p> <p>戦死された方の兄弟姉妹や、子・甥・姪から、若い世代である孫・ひ孫達等の家庭に「戦争の悲惨さや、戦争は絶対してはならないこと！」を、繰り返し認識していただき、来る次の時代が平和いっぱいであるように。</p> <p>そして、各町自治会・市役所・教育委員会・図書館・文化資料館・各小中学校幼稚園等に配布する予定です。</p> <p>それぞれの組織や機関において活用いただければ大変幸いと考えています。</p>	

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。



事業報告書

団体名：NPO 法人 ブルーゲル

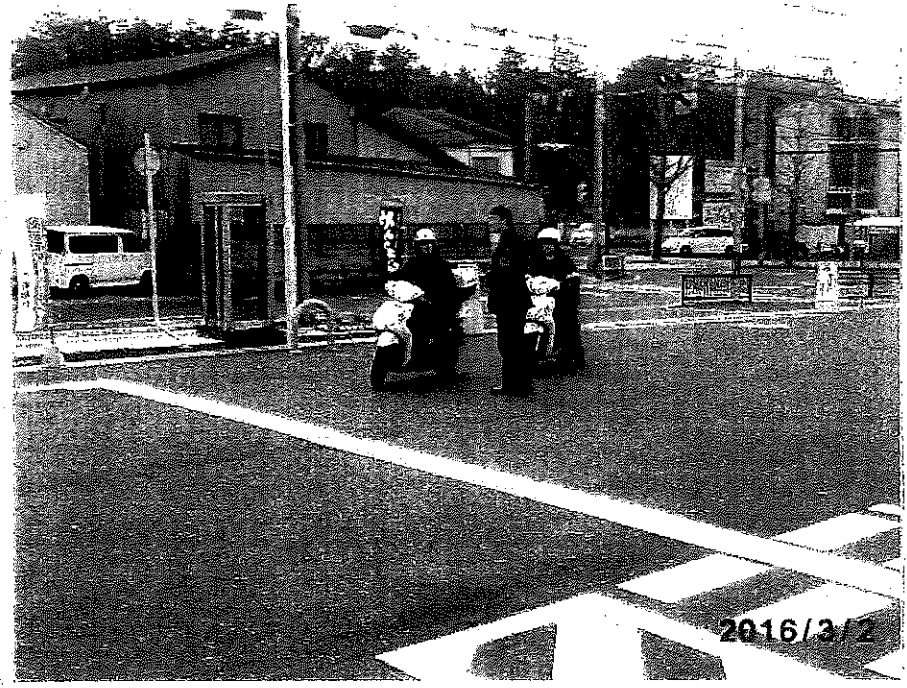
1. 事業名	地域のつながりによる安心・安全なまちづくりに向けた市民参加の機運づくりと啓発事業
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)
<p>1) 安全安心のまちづくりに向けて地域住民が取り組むことができる活動などをまとめたパンフレットを作成し、配布を行い地域住民の安全・安心のまちづくりへの意識啓発を行うために</p> <p>① パンフレットの作成 700部 適宜、説明会等勧誘時に配布及びコンビニ等に配置。 ② 説明会開催のチラシの作成 2400枚 適宜、逡送により配布及びコンビニ等に配置。 ③ 説明会の開催 平成27年11月28日(土)参加者15名 平成28年3月24日(木)参加者26名</p> <p>2) 経年劣化が目立つ「青色防犯灯」等を新調し、青色防犯パトロール活動の充実を図るとともに、上記1.の説明会を通じて活動に参加する(協力)意思を示した住民の方に、パトロール隊員として必要な知識及び技量を身に付けていただくために、亀岡警察署による実務者講習を受講してもらい、パトロール台数を増加させる。</p> <p>① 青色回転防犯灯(車載用) 30基 購入(配備及び備蓄) ② マグネットステッカー 60枚 購入(配備及び備蓄)</p>	
3. 成果	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
<p>1) 問い合わせも含めここ数年間で新規登録者が年間1人程度であったが、本年度は実質半年間の広報活動及び啓蒙啓発活動により、説明会(報告会・講習会)に多数参加して頂き、その中から10名の新規登録者を迎えることが出来た。</p> <p>2) 現行の隊員の装備で経年劣化していた回転等を新調することが出来た。また、新規登録者に回転灯及びマグネットシートを貸与することが出来た。</p>	

4. 協働の効果	<p>※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。</p> <p>事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。</p>
5. 今後の展開	<p>事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。</p>
<p>上記の事業活動を通じ、地域住民一人ひとりが、自らが住む地域の安全・安心を自らの力で守ることへの意識の向上を図るとともに、各々ができる範囲で一步ずつ取り組むことの大切さに気付いてもらえることが出来たと思います。具体的には「青色回転灯を使用した防犯パトロール活動」新規参加者 10 名と「一人暮らし高齢世帯見守り活動」新規参加者 30 名を迎えることが出来ました。</p> <p>・この活動は継続していくことが大事であり、本事業により作成したパンフレット等を今後も有効活用し、活動への理解や協力者を増やしていきたい。</p> <p>・亀岡警察署生活安全課と情報交換及びパトロール活動に関する連携を深めることが出来ました。今後は単なるパトロール活動ではなく、防犯の域を超えて軽犯罪全般に係る予防的・抑止的效果を拡大させるためにも、登録者の数を増やし、市内各地域に点在する同活動を行っておられる団体との連携も強化しながら、「セーフコミュニティのまち亀岡」の更なる推進のために、努力して参ります。また、資金面については、今後も寄付金を募りながら、自治会からの活動補助金などを活用していきたい。</p> <p>・地区社協からの委託事業として活動していますが、今後は当団体が独自で京都府警より委嘱を受けて活動を行う予定にしております。</p>	

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

ローソン
通関駅
店前



青パトとは?

「青パト」という言葉を知っていますか?

正式名称は「青色回転等装備車（青色パトカー）」と呼び、警察署に申請し適切な自主防犯パトロールを行えると認められた団体やその車両のことを指します。青パト活動のそのほとんどが地域のボランティアによるものです。自主防犯パトロールは地域社会の犯罪や交通事故の抑止になるだけでなく、地域社会の輪を広げつなげる役割も担っています。

NPO法人ブルーイーグルス

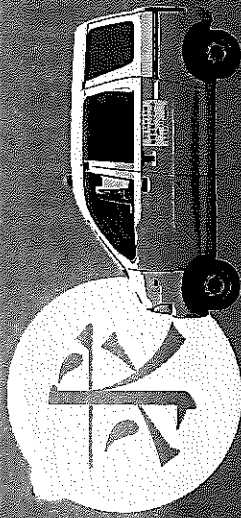
ブルーイーグルスは亀岡地域の安心・安全な街づくりの実現を目指し、安全パトロール活動並びに防犯講習会等の事業を行うNPO法人です。

主な事業とその目的

「青色回転等を使用した防犯パトロール活動」

「一人暮らし高齢世帯見守り活動」

児童の登下校の見守り活動、地域の防犯を目的としたパトロール活動、交通安全・防犯講習などを通じて安全・安心な街づくりへ貢献します。



ブルーイーグルスでは、パトロール活動参加者(ドライバー)を随時募集しています。興味、関心のある方は是非お気軽にご連絡下さい。

募集要項（全てに該当すること）

1. 週に1回以上パトロールできる方
2. 月に1回以上夜間パトロールができる方
4. 日常的に防犯活動についてご理解・関心のある方
3. 自家用車(車体に社名等が記載された車両は不可)を使用できる方
5. 亀岡地区内に居住されている方

詳しい活動内容や募集要項についてのお問い合わせ等は下記までご連絡下さい。

お問い合わせ・申請手続・連絡先

亀岡地区社会福祉協議会

特定非営利活動法人 ブルーイーグルス

亀岡地区自治会連合会 事務所内

電話番号 0771-22-5576

青パト

特定非営利活動法人

Kameoka
Blue
Eagles

ブルーイーグルス設立趣旨

代表 田中義雄

近年、児童達が誘拐事件や殺害事件など、凶悪犯罪に巻き込まれる事件が多発しています。子どもたちをあらゆる犯罪から守り、子供たちの大切な命を守るために、「地域の大人たち」は何をすれば良いのか、何が出来るのかを考えて来ました。子どもたちが被害者となる凶悪犯罪を未然に防ぐために、地域社会で何が出来るか、地域の大人たちが犯罪の起きにくい環境をつくる取組みを早期に実施しなければならぬと考えております。

一方、児童はもちろんお年寄りの皆さんが歩行中、自転車運転中に交通事故に遭わないようにするためにはどうしたら良いかを考え、道路に潜む危険「加齢に伴う身体機能の変化」交通ルールとマナー」について分かりやすく理解してもらえような講習会などを実施し、防犯のみならず交通事故の抑止活動も重要であると考えています。以上の状況から、関係機関はもとより家庭、学校、地域社会等住民が一体となった「防犯・事故防止運動」を推進するために、従来から続けてきた「青色防犯パトロール隊」の活動をさらに充実させ、公的な活動としてさらに認知・周知して頂くために特定非営利活動法人として認証を受け、新たに基盤組織を充実し地域住民の皆様と共に活動が出来るようにして参りたいと考えております。

亀岡市は国内初セーフコミュニティ国際認証都市です。

セーフコミュニティとは？

セーフコミュニティ(Safe Community)とは、世界保健機関(WHO)SC協働センターが推進する「けがや事故などは偶発的に発生するものではなく、対策を施すことで未然に防ぐことが出来る」という理念に基づいて安心安全なまちづくりを目指す地域のことです。亀岡市は、全国市町村区村の中でも先駆けてセーフコミュニティ実現に向けた活動に地域社会が一体となって取り組んできました。その活動の中でもとりわけ特徴的なのは、地域住民が主体となり自ら積極的に取り組んでいることです。そのような亀岡市の取り組みはセーフコミュニティのモデル地域として府内のみならず全国にも広く認知されています。平成19年、亀岡地区福祉協議会の役員を中心に、地域住民のボランティアによってブルーイーグルスの前身となる「亀岡地区青色防犯パトロール隊」が結成されました。児童見守りや防犯活動に取り組む地域住民の活動の輪は広がり、現在市町村として府下第2位の規模を誇ります。平成23年、ブルーイーグルスはそれら長年の活動が認められ特定非営利法人(NPO法人)として設立しました。地域住民と築き上げてきた実績・信頼を基に、地域住民、事業団体、行政機関等と協働してセーフコミュニティ実現を目指し活動していきます。

亀岡市／セーフコミュニティ

<https://www.city.kameoka.kyoto.jp/shise/shisaku/safe-community/index.html>

一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構

<http://www.jisc-ascc.jp/>

特定非営利活動法人

Kameoka
Blue
Eagles

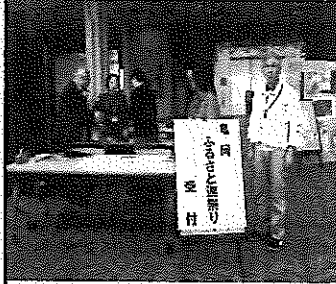
事業報告書

団体名: 亀岡広島県人会

1、事業名 「市制60周年記念 亀岡市民全国県人会まつり」

2、事業内容 実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)

日時: 2015年11月23日(祝・月)
 場所: ガレリアかめおか 1Fフロアー²¹
 参加者数: 参加総数250名(ふるさと連、当日来館者、お手伝い(餅つき関係)、市制60周年年記念関係者、子供)
 事業内容: ガレリアかめおか(8月22日~29日)において来館者へのアンケート調査(添付資料①)から全国各府県の県人会を集め、亀岡でお国自慢の県人会まつりの開催への啓蒙活動を実施する。(データは添付資料②)
 県人会祭りに向け呼びかけ人(亀岡広島県人会)として準備にはいる(活動記録添付資料③)
 11月23日「市制60周年記念 亀岡市民全国県人会まつり」の内容
 ※尚、パンフレット等は名称を「亀岡・全国ふるさと連まつり」としています。理由は、活動主旨の問い合わせ等の大半が、広島県人会の活動と勘違い(全国県人会まつり=広島県人会)されている点と多くの参加を得る為です。
 ○もちつき大会(10:30~14:00)



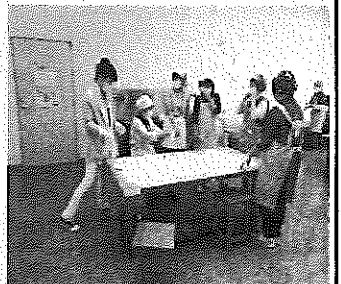
(広島県人会のスタッフで受付準備)



(餅つき!)

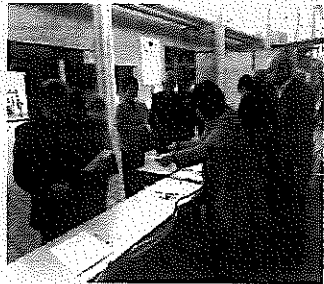


(姉妹都市のお客様も餅つき!)



(女性スタッフも頑張っています!)

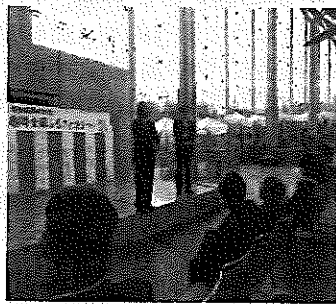
○市制60周年記念・全国ふるさと連まつり(11:30~12:30)



(全国県人会まつりの受付風景)



(黄粉餅のお味は?)



(第1回開会の挨拶へ)



(会場風景)



(サークル菜摘様の音楽ショー)



(坂本先生の講和)

3、成果 事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成長を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

申請時の課題解決への目標
 ●「共通のふるさとを持つ人」をキーワードで住民に呼びかけ、県人会を結成し、新たな県人会連合としてグループ化を図り、ふるさとを同じにする人たちの連帯感や絆を育み、市内の社会貢献活動につなげたい。又同郷意識から連帯感を生み、地域貢献に関わる人を増加させ、「いきがづくり」に寄与することが出来る。(申請時のコメント)

↓

●上記に対する成果
 9時より受付開始、胸に出身地(地域別カラー名刺)を書いたネームプレートを付け早々の同県人同志、笑顔で交流している姿があちらこちらで見られた。多くの参加者も大変喜んで楽しんでおられました。サークル菜摘さんの軽音楽を大勢の人に楽しんでもらえ、次回開催の目安となり多少自信が出来ました。

まだまだ県人会結成へのステップには、当面亀岡広島県人会がリーダーシップを取り、呼びかけを行い発展させていくことが必要であり、次回への開催に向けて情報の整理と多くの意見を参考にしていきたい。

※今回亀岡市制60周年記念で、海外姉妹都市より参加があり、一緒に餅つきをし、食され日本の文化を楽しみ大変喜び感激されていました。

4. 協働の効果	<p>※市民連携事業、行政連携事業のみご記入ください。 事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。</p>
5. 今後の展開	<p>事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。</p>
<p>(1) 終了後の展開(A)申請時のコメント</p> <p>亀岡に少しでも各都道府県別に県人会等が設立されれば、亀岡のまちづくりへの提言(各地多様な価値観で亀岡を議論して街づくりのヒントにする)。</p>	<p>※今後の展開へ</p> <p>今回参加された人より役員を選出し、実質的な県人会を広めていきたい。住み良い町づくりにする為に何か貢献したい。今回「亀岡・全国ふるさと連まつり」は1回目としては大成功に終わったと感じております。反省点としては、高齢者の参加が多く餅つき手が少なく思わぬ出費となった(バイト代15,000円→商品券)</p> <p>当日の会場が受付、餅つき、式典会場とやや分離していたので、一体感が伝わらなかったように思うので、次年度開催時に工夫したい。また、出席者はやや高齢者が多かったため、現役層のふるさと市民も取り込むように工夫したい。</p>
<p>(2) 支援終了後の展開(B)申請時のコメント</p> <p>特に広島県人会としては、戦後・被爆70年から、長崎県の人達とともに、亀岡市の「安全・安心」のまちづくりを発信できる取組が出来る事を願っています。</p>	<p>長崎県出身地は名簿(登録)から1名、当日会場アンケートにて1名(計2名)の参加となりました。まだまだこれからの活動を等して懇親を深めていきたい。</p>
<p>「ふるさと」とキーワードに他府県から亀岡へ移り住んでいただいた皆様と、地元亀岡の良きふるさとを積極的にPR出来る環境を整えて、さらに多くの方に亀岡へ移り住んでいただけるように今後の活動へつなげていきたい。</p>	

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

各県人会亀岡につくろう



亀岡市内で各県人会の結成を呼び掛けるのぼり
(8月下旬、亀岡市余部町・ガレリアかめおか)

「広島県人会」呼び掛け 11月に催し計画

亀岡市内唯一の県人会「亀岡広島県人会」が、市内在住の京都府外出身者に、各県人会を立ち上げてほしいと呼び掛けている。同会が組織づくりを手伝うほか、各地の出身者を集めた「県人会まつり」も11月に計画。同会は「宅地開発で移った人の多くが退職者となっているが、地域との交流が少ない。お国自慢で集まることで、市民の絆づくりに役立ちたい」と語る。

亀岡広島県人会は、知人同士の飲み会などを契機に1991年に発足。県出身者のほか亀岡生まれの子どもも世代、広島で勤務経験がある人など、現在44人が入会している。懇親会のほか、京都市で開かれる全国高校駅伝への応援といった活動を続けている。

今年、市制60周年を迎

お国自慢集い絆づくり

えたことから、同会も記念事業として、11月23日に各県出身者を集めた「亀岡市民全国県人会まつり」を企画。各県人会を新たに結成してもらおうと、広島県人会のメンバーが知り合いらに地道に声を掛けている。

同会は今月、余部町のガレリアかめおかで開いた「原爆と人間展」に合わせ、県人会設立に関するアンケートを来館者に行った。約120人の回答では、出身地は京都府以外で28都道府県にまたがり、県人会を望む声は多かったという。

約40年前に亀岡に居を構えた広島県世羅町出身の井手口幸男会長(74)は「東つつけ丘」は「例えば徳島出身者が阿波踊りを披露すれば催しが盛り上がる。故郷の団結力を生かし、亀岡のためになることをしたい」と期待を込める。問い合わせは亀岡広島県人会の茶木さん携帯電話090(8933)3187。

(久保田昌洋)

亀岡で深まる同郷の絆

「全国ふるさと連」設立

亀岡市在住の市長が出身府県ごとに集まって交流を深める「全国ふるさと連」がこのほど設立された。27道府県の234人が登録した。今後、さまざまな活動を通して同郷の絆を強める。

ふるさと連は市内唯一の市民会「亀岡ふるさと連」の呼び掛りで発足した。べ



亀岡市在住の京都府外出身者が集まって設立した「全国ふるさと連」の総会

(亀岡市奈都町・カトリックかめおか)

27道府県234人登録 「工夫して交流の場に」

絆つくり役立てば組織を立ち上げた。

登録者の主な出身地は、39人の広島のはが12人の兵庫県、岡山、9人の大阪、福岡、長野、8人の富山、三河、7人の滋賀、福井、熊本、山口など。北海道から沖縄まで全国にまたがっている。

活動内容は今後具体的に検討するが、都道府県対抗で行われるスポーツ大会の応援や各地の特産品を兼ねた物産展、民俗芸能フェスティバルなどが考えられるという。

亀岡市奈都町のカトリックかめおかで開かれた設立総会では、京都学園大の坂本眞雄名誉教授(秋田県出身)を会長に選出した。坂本会長は「多様な市長がいる自治体は元気がある。いろんな工夫をして交流の場としていきたい」と抱負を語った。

参加した長野県出身の行内光雄さん(67)「矢野町には「同郷のつながりができれば、善光寺のご開帳や地元の花火大会などの際に一緒に帰郷できるかもしれない」と話していた。ふるさと連は市民の参加を募っている。連絡は事務局の茶本さん 携帯電話090(8893)331887。(目黒重幸)